

みんなでつながる

01

所属	三重県桑名市立久米小学校	実践者	清水 歩美
対象	小学1年生	時間数	9時間
場所	教室	実践教科	生活科、特別活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・他国について知ることを楽しみ、世界とのつながりに気づく。 ・自分の今の生活に感謝し、物を大切にしようとする意識を育む。 ・他者との違いを受け入れ、周りの人とつながるために自分ができることを考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆とどけ、わたし(ぼく)たちのしおり ・世界にはいろいろな国があることを知る。 ・パラグアイに興味を持ち、パラグアイの子ども達に向けてしおりをつくる。	世界地図、地球儀 国旗、しおり用の紙
	2、3	◆パラグアイってどんなくに？ ・パラグアイの人々の生活や文化について知る。(フォトランゲージ) ・現地の物に触ったり、匂いを嗅いだりして五感で感じる。	パワーポイント資料 現地で購入したもの
	4	◆じつはあった！せかいとのつながり～パラグアイのゴマをたべてみよう～ ・自分たちの作ったしおりが、パラグアイに渡ったことを知る。 ・生活の中に外国産のものがたくさんあることに気づき、世界とのつながりを感じる。 ・パラグアイ産のゴマについて知り、ゴマを食べることでパラグアイを身近に感じる	現地の学校での動画 現地の写真 パラグアイ産のゴマ
	5、6	◆いっぱいお世話になっているね ・自分たちの生活を振り返り、普段どんなものに関わっているかを考える。 ・「おともだち」を選び、クラスで共有する。(ブレンストーミング、書き出し)	模造紙 ペン
	7	◆みんなでつながるのってたのしいね ・クラス遊びを通して、人とつながっていることの楽しさに気づく。人とつながりには、どんないいことがあるか考える。	
	8	◆わたしのあたりまえは、あなたのあたりまえじゃない？ ・「白ごはんのおともは？」を考え、共有することで他者との違いに気づく。 ・自分の当たり前が、世界ではそうでないことに気づく。	付箋 指導者研修資料
	9	◆わたし(ぼく)ができること クラスの友だちとよりよくつながってられるために、自分にできることを考える。(ブレンストーミング、書き出し)	模造紙 ペン
	成果	様々なものを教材として児童たちに提示することで、五感で感じる事が多く、興味関心を持って授業に参加できていた。「パラグアイに行きたい」「いろんな国にいつてみたい」という児童が増えた。参加型のアクティビティを取り入れることで、友だちの意見から多くの学びを得ていた。	
課題	実際の生活になると周りの友だちとの違いを受け入れることが難しい児童もいるため、授業で気づいた「自分にできること」を「実践する」へつなげる手立てが必要であると感じた。子ども達の実態からものを大切に作る姿勢も育んでほしかったため5・6限目を入れたが、全体の構成から少しずれてしまった。		
備考			

あいてをしゃってかかわって、こころもからだもほっかほか

02

所属	岐阜県高山市立栢尾小学校	実践者	山田 真沙美
対象	小学2年生(特別支援学級児童1名含む)	時間数	6時間(45分×6)
場所	2年生教室	実践教科	生活科 国語 道徳
ねらい	ガーナという国を知ることを通して、自分たちの国や身の回りのことに目を向ける。 また他者と自分たちとの同一性に気づき、人とより良い関係を築くためにどうするか考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【世界を知ってる？ガーナ編】 ◎ガーナという国を知る。 1 アイスプレーキング ※アクティビティ名 2 ガーナってどんな国？(自分のイメージを持つ) ※グルーピング 3 学校・町の様子を知る。 ※ポップコーン 4 感想 ※フォトランゲージ	使用教材(全時間) ・2015年度 JICA 教師海外研修 (ガーナ) Photo&Movie 集 グルーピング項目 ・同じ地区の人 ・好きなアニメ ・パワーポイント
	2	【つながりがあったんだ！ チョコレート】 ◎日本とのつながりを知る。 1 アイスプレーキング ※フォトクイズ 2 チョコレートは何からできている？ 3 ガーナといえば？ 4 感想	・パワーポイント ・LOTTE HP 参照 http://www.lotte.co.jp/education/
	3	【にているところもありそうだ！暮らしをのぞこう】 ◎ガーナと似ているところ、違うところを探す。	グルーピング項目 ・好きなおにぎりの具 ・朝ごはん
	4	1 アイスプレーキング ※グルーピング 2 これはなんだろう？なにしている？みんなで考えよう！ ※フォトランゲージ 3 どこにいてる？どこちがう？ ※対比表 4 感想	
	5	【なかよくなるにはどうしよう？人の様子を見てみよう！】 ◎違う国の人と仲良くなるにはどうするか、考える。	ラインアップ項目 ・誕生日順ならば ・パワーポイント
6	1 アイスプレーキング ※ラインアップ 2 動画で見よう！ガーナの人々(学校の子どもたち) 3 もしも、仲良くしようとしなかったら… ※派生図 4 違う国の人と仲良くなるには、どうするとよいのだろう。 ※リストアップ 5 人と仲良くなるために…自分ができると宣言		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ガーナという国を知ることを通して、他国にも関心を持つ児童が増えた。 ・文化も言語が違っても同じ「人間」なんだということ、改めて感じとることができた児童もいた。 ・他国の生活と比べることで、自分たちの身近な生活の良さにも気づくことができた。 ・経験がないと敬遠しがちな児童も、やってみるとその良さや楽しさがあることに気づく経験ができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージの写真が多かった。活動時間を確保するためにも写真はもっと厳選する。 ・違う国の人との関わりを考えることは身近な他者との関わり同じだということをもっと実感させたい。 ・低学年がもっと楽しめるアクティビティを取り入れて、参加型を充実させたい。 		
備考	学級の人数は13名。特別支援学級担任なので、交流および共同学習の一つとして取り組んだ。		

世界とつながるわたしたちの水

03

所属	愛知県瀬戸市立西陵小学校	実践者	戸田 万里江
対象	小学4年生	時間数	6時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な「水」を通して自分と世界とのつながりに気付くことができる。 ・世界の課題について知り、自分達にできることを考えることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	くらしの中の水 ・アイスブレイキングを行う。 ・「自己紹介／好きな飲み物／水に関する思い出」 ・水に関するクイズを行う。 ・地球上のどこに水が存在するかを考える。	「水から広がる学び」 ・水に関するクイズのプリント
	2	世界の水事情を知ろう ・クラスを世界に見立て、安全な水が手に入らない人々はどれくらいいるかを体験する。	「国際理解教育実践資料集」 ・安全な水にアクセスできない人々の資料プリント ・タムリさんの生活の写真
	3	タムリさんの生活を知ろう ・アフリカに住むタムリさんの生活を知る。 ・安全な水が手に入ることで生活がどのように変わるのか考える。	
	4	世界とつながる水 ・カレーライスを作るために必要な水を考える。 ・バーチャルウォーターを知り世界とのつながりを考える。	「水から広がる学び」 ・バーチャルウォーターに関する資料
	5	水の大切さを伝えるポスターを作ろう ・学習したことをもとに、ポスターを作成する。	
	6	ポスターを発表しよう ・伝えたいことを考え、表現する。	
成果	アフリカの生活の様子を知ることで、日本では当たり前にある水の大切さに気付くことができた。世界とのつながりを感じ、水を大切にしたいとポスターで表現したり、実際に行動したりすることができた。世界の国や人々に興味をもち、休み時間に調べるなど意欲的に活動する姿も見られた。		
課題	時間数が少なく、調べ学習や体験学習を十分に行うことができなかった。子どもたちの関心が高かっただけに、もっといろいろな活動を取り入れられたらよかった。世界の課題についてももっと知りたいという声があり、一過性としなないように、今後も関連のある授業をしていきたい。		
備考	参考文献:「水から広がる学び」開発教育協会、「国際理解教育実践資料集」JICA		

食でつながる世界と自分！自然と自分！

04

所属	浜松市立北浜東小学校	実践者	笹ヶ瀬 菜生
対象	小学4年生(21人)	時間数	8時間
場所	教室	実践教科	学活、道徳
ねらい	<p>○食を通して自分と自然、自分と世界とのつながりに関心をもつ。</p> <p>○自然を大切にする気持ちを育み、自分にできることを実践しようとする。</p> <p>○日本にも外国にもそれぞれの国の良さがあることに気付く。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆わたしたちの食べているものはどんなもの？</p> <p>①「ぼく、わたしの食べたもの調べ」を見て気付いたことを話し合う。</p> <p>②友達と紹介し合い、共通点や違いを見付ける。</p>	
	2	<p>◆外国ではどんなものを食べているのかな？</p> <p>①日本の食卓に並ぶもので外国産のものはどのくらいあるのか知る。</p>	農林水産省パンフレット「ニッポン食べもの力見つけ隊」
	3	<p>②外国の1週間分の食料と家族の写真を見て、どの国のどんな家族か想像する。日本との共通点や違いを見付ける。</p>	写真「地球の食卓—世界24か国の家族のごはん」TOTO 出版
	4	<p>◆お茶タイム！マテ茶とチパのお菓子を味わおう</p> <p>①マテ茶の茶葉やチパのスナックに触れ、味わい、異文化を体験する。</p> <p>②初めて行った国で知らない食べ物に出会ったらどうするか考える。</p>	パラグアイで購入したもの(マテ茶の茶葉、お菓子、水筒など)
	5	<p>◆パラグアイと日本の食事を比べてみよう</p> <p>①パラグアイの写真を見てどんな場面の写真か想像し、話し合う。</p> <p>②パラグアイの人々の気持ちや考えを知る。</p> <p>③日本とパラグアイそれぞれの国の良さを見付ける。</p>	パラグアイの食事の写真
	6	<p>◆びっくり！もしも(野菜)が無くなったらどうなる？</p> <p>①もしも野菜が無くなったらどうなるか意見を出し合う。</p>	環境問題の写真
	7	<p>②どんなことが起きたら野菜が無くなってしまおうか考える。</p> <p>③世界でどんなことが起きているか知り、地域の環境を振り返る。</p>	地域の自然の写真
	8	<p>◆シシリアさんの生活や考え方をのぞいてみよう&ぼく、わたし宣言</p> <p>①パラグアイの小農家シシリアさんの畑の様子や活動の説明、インタビューの動画を視聴する。</p> <p>②動画を見て心に残ったことやシシリアさんから受け取った思いを書く。</p> <p>③自分にできることを考えて「ぼく、わたし宣言」を発表する。</p>	パラグアイで撮影した動画
成果	<p>パラグアイという全く知らなかった国と肯定的に出会い、他の国と日本との違いに興味をもったり、違いを楽しむようになったりした。また、自分の考える当たり前が当たり前ではないことに気付く子が多くいた。写真や動画、実物などを授業で使用したり、参加型で行ったりすることで、進んで自分の考えを伝えたり、相手の話を聞いたりする子が増え、「またやりたい！」という声が挙がった。</p>		
課題	<p>教師の伝えたい思いが先行し、自然との共生について子どもたち自身が考える時間をあまりとれなかった。子ども自身が発信する場面を増やすことや、課題を自分のこととして見たり、身近なものとしてとらえたりできるような工夫、目的を絞った流れのあるプログラム作りが必要であった。</p>		
備考			

つながる、世界のWA！

05

所属	桑名市立久米小学校	実践者	駒谷 奈津
対象	小学5年生	時間数	8時間
場所	教室	実践教科	総合
ねらい	①「世界に興味を持つ＝自分以外に目を向けること」を具体的に体験させる。 ②クラスや自分の周りの出来事に置き換えて考えさせる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	世界とのつながり、自分の周りに目を向けるアクティビティを体験し、思ったことや考えたことを共有する。 1)世界の国旗クイズ 2)「私はどこの国の人でしょう？」 * グループに4カ国の人々が写っている写真を渡し、7つの国名からどの国の写真なのか国名を選択する。 3)エルサルバドルクイズ * ペアで引いた一枚のエルサルバドルクイズのボードを読み上げ、クイズを出題する側になる。その後、グループに10枚のエルサルバドルの写真を配り写真とクイズを一致させる。	・世界の国旗セット ・4カ国の生活の様子、人々の写真 ・エルサルバドルクイズボード ・地図帳 ・エルサルバドルの写真10枚
	2	エルサルバドルにしかないもの、日本にしかないもの、エルサルバドルと日本両方にあるものを整理し、感想を共有する。 1)写真からエルサルバドルにしかないものを書きだす。 2)日本にしかないものを書きだす。 3)両方の国に共通することを書きだす。 * 他人と自分は違うけれども、その中にも共通性があるのではないかとという視点を持たせる。	・半模造紙 ・各自ペン1本 (色ちがい)
	3	仮想「ニッポン」を考える。 1)自国の文化や生活を否定され続ける国「ニッポン」は今後どうなるでしょうか。 2)自国の文化や生活を肯定され続ける国「ニッポン」は今後どうなるでしょうか。 * 派生図でもし否定されたら、、、肯定されたら、、、を実施した後に仮想「ニッポン」を作る。	・派生図用半模造紙 ・仮想「ニッポン」用半模造紙 ・宣言用短冊 ・各自ペン1本
	4	あなたのクラスはどちらの方向に向かっていきますか？そのためにあなたができる事はどんな事ですか？	
成果	昨年度に引き続き担任をすることになった学年である。そのため、昨年度の『出会うこと』『ボランティア』に焦点を当てた実践からもう一步踏み込んだ『自分と周りの世界との調和とは』をテーマに据える事ができた。昨年、学年で国際理解教育を実施できたことも活かし、昨年度よりも自分ごとに置き換えて考えられる子どもがいたと思う。		
課題	日本と海外(主にエルサルバドル)の文化の違いや共通性を参加型の手法を使って子ども達は主体的に考え取り組む事が出来たが、体験が少なく、終始、机上の議論で終わってしまった。もう少し、実際に体験させるなど、頭と体を使うアクティビティを入れた方が良かった。		
備考	地域のフェスタにて、「エルサルバドルのコーヒーはどれ？」(コーヒーの試飲)、エルサルバドルの衣装体験、エルサルバドルの紹介(JICA ボックス使用)エルサルバドルクイズラリーを開催。パラグアイと共同開催し、広く地域に周知した。		

違うって面白い！もっと知りたいな！

06

所属	名古屋市立南陵小学校	実践者	木下 恵
対象	小学5年生	時間数	7時間
場所	教室	実践教科	総合
ねらい	・ 違いを認め合う大切さに気づき、他者、世界と積極的に関わろうとする姿勢を育てる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○ エチオピアってどんな国？～エチオピアとの肯定的な出会い～ ① エチオピアに対するイメージを書き出す(ブレインストーミング) ② エチオピアの様子をクイズ形式のスライドで紹介 ③ 実際の様子を見て思った感想を発表	☆基本全てグループ パワーポイント
	2	○ エチオピアでこんなもの見つけたよ！～面白い物いっぱいエチオピア～ ① エチオピア体験の紹介 ② エチオピアBOXの紹介(実物)	パワーポイント エチオピアBOX
	3	○ エチオピアと日本の違いを見つけよう！～違うって面白い！～ ① エチオピアの写真から日本との違いを見つける(対比表) ② 違いを見つけた感想を発表	エチオピアの写真 ・スーパー ・学校 ・道路 ・街の様子
	4	○ エチオピアと日本の似ているところを見つけよう！～人として大切なもの～ ① 第3回で使った写真や資料から共通点を見つける ② 共通点に共通していることは何か話し合う	前回の写真 エチオピアの子どものインタビュー をまとめた資料
	5	○ もしもみんなが同じなら？～違うからこそ面白い～ ① もしもみんなが同じ考え、同じ暮らしをしていたら？(派生図) ② 違いがあるおもしろさ、大切さに気付く	 [派生図を書く児童]
	6	○ 違いを認め合うってどういうこと？～認め合わないとうなるだろう？～ ① 世界が互いの違いを認め合わなかったら？(派生図) ② クラスのみんなが互いの違いを認め合わなかったら？(派生図) ③ 違いを認め合う大切さに気付く	 [児童が書いた派生図]
	7	○ 認め合うにはどうすればいいの？～行動しよう！まず私から～ ① なぜ認め合えないのか？(力の分析) ② 認め合うにはどうすればいいの？(二次元軸表)	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童がエチオピアに興味をもつようになり、他の国のことも知りたいと思う児童も多く見られた。 ・ 互いの違いを認める活動の視点を世界→自分たちに移すことで、理解しやすくなった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに興味をもって積極的に関わろうとすることができない児童もまだいる。総合の時間のみならず、他教科でも関わり合いながら学びを深められるような形式の授業を作り上げていきたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回授業の始めにその日のテーマにつながる ice break を取り入れて行った。 ・ 3学期には、現地の協力隊の方へ行ったインタビュー映像を使って、世界の課題に取り組む日本人について授業を進めていく。 		

そんな考えがあってもいいよね。

07

所属	名古屋市立長須賀小学校	実践者	鈴木 亜耶
対象	小学5年生	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	学級活動・道徳
ねらい	世界の多様性に気付き、日本との違いを肯定的に受け取ることができる。 周りの人をより良く理解しようとするすることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	「世界がもし5年2組35人の村だったら」 ① 数字クイズ 数字を板書し、何を表しているか当てる。 (日本の人口・世界の人口・世界の国の数) ② 世界を5年2組35人の村に縮小したカードを引き、カードに書かれているグループに分かれる活動を通して、世界の現状を大まかに理解する。 (性別、年齢、人種、住んでいる地域、宗教、言語) ③ 「世界がもし100人の村だったら」を読み、世界には様々な人がいることを知る。	役割カード 「世界がもし100人の村だったら」 ワークシート
	2	「自分と違う人がいたら」 ① クイズから、イスラム教で禁止されていることを知る。 ② もし、イスラム教の友達がいたら何と言うか考える。 ③ 宗教に関係することで、自分たちがしていることを話し合う。 ④ もし、自分たちがしていることを否定されたらどう思うか派生図を書いて考える。 ⑤ もし、イスラム教の友達がいたら何と言うかもう一度考える。	カラーペン 半模造紙 ワークシート
	3	「相手の話を受け止めながら聴こう」 ① 「最近楽しかったこと」についてペアで話す。聴き手はあいづちしながら聴く。 ② 「頑張っていること、苦労したこと」についてペアで話す。聴き手は相手の話を振り返る。 ③ グループで感想を伝え合う。	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界がもし5年2組35人の村だったら」のアクティビティーを通して、世界には様々な人がいることに気付き、世界の人々に興味をもつことができた。 ・自分たちがしていることを否定されたらどう思うか派生図に書いて考えたことで、自分の観点だけで判断・否定するのではなく、相手のことを受け入れようとする大切さに気付くことができた。 ・自分の話をしっかり聴いてもらって「うれしかった」という体験をしたことで、これから相手の話をしっかり聴こうという気持ちをもつことができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教について偏ったイメージをもっていたため、自分の意見を書くことに躊躇している子がいた。様々な側面から紹介をすれば、違いを肯定的に受け入れようとする気持ちを高めることができたと思う。 		
備考			

なったらいいな！こんな学校

所属	名古屋市立東海小学校	実践者	住友 夏代
対象	小学5年生(40名)	時間数	4時間／6時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間／図画工作
ねらい	<p>○ 世界の子どもたちが抱えている問題について学び、自分の学校とのつながりを感じることで、「こんな学校になったらいいな」という願いをもつ。</p> <p>○ それぞれが考えた「こんな学校になったらいいな」という想いが伝わるポスターを作成し、学校の友達や保護者、学区に発信する。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>★ ここでは、総合的な学習の時間のみのプログラムを載せる。 【東海小のいいところ！】</p> <p>◇アイスブレイク なかま探し(住んでいる地区、疲れた時に食べたいおやつなど) 自己紹介(この学校で好きな場所とその理由) ◇派生図をもちいて、この学校のよいところを考える。 →ワールドカフェで共通理解。 Ex:みんな仲がよい。外国人が多い。など</p>	
	2	<p>【世界の友だちに出会ってみよう】</p> <p>◇フォトランゲージを通して、世界の子どもたちの写真をみる。 →どんな子どもたちか話し合う。 ◇その子どもたちが抱えている問題を手紙を通して知る。 Ex:水問題、ジェンダー、学校へ行けない</p>	<p>「世界のともだち」 (キューバ・エジプト・ミャンマー・セネガル・オランダ編) 借成社</p>
	3	<p>【つながってるね！世界学校と私たちの学校】</p> <p>◇世界の子どもたちの写真の中で、力になってあげたい子どもを一人選ぶ。 ◇その国ごとにグループを作り、課題やどうしたら解決できるか話し合う。(箇条書き) ◇今の学校と同じこと、つながっている内容には☆マークをつける。</p>	
	4	<p>【こんな学校にしたいな】</p> <p>◇それぞれがこんな学校にしたいという思いをもつ。 →否定的な書き方ではなく肯定的に、「○○な学校」と書く。 ◇それが達成されたとき、達成できていないときをイメージ図を用いてかく。 ◇グループで自分の考えを発表する。</p> <p>※ 各回の最後に振り返りの時間をもつ。 ※ その後図画工作の時間にポスター作りをする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>達成できたイメージ (人、もの、場所)を かく。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>イメージ図</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> <p>達成できなかった イメージ(人、もの、 場所)をかく。</p> </div>
成果	<p>○ フォトランゲージを使用することで、世界の子どもたちを身近に感じる事ができた。</p> <p>○ 参加型の手法を取り入れたことで、普段あまり話すことのない友達と活動したり、一人ひとりがこんな学校にしたいという願いをもてたりして、主体的に学ぶ態度が育った。</p>		
課題	<p>○ 世界の子どもたちの課題を自分の学校に置き換えて考える活動が難しかった。もう少しステップを踏む必要があったと感じた。</p>		
備考	<p>指導形態は、2クラス合同(T. T)の形式で行った。</p>		

防ごう！第三次世界大戦 守ろう！かけがえのない命

09

所属	愛知県大治町立大治南小学	実践者	服部 いずみ
対象	小学5年生	時間数	25時間
場所	5年1組教室	実践教科	国語科・総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不公平・不平等や利益至上主義から紛争が生じることを理解することができる。 ・ 紛争を解決するために、自分たちにできることを考え、行動することができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～10	【世界の課題について知り、解決するための方法を提案書にまとめよう！】(国語科)	
	11～12	【知っている国を仲間分けしてみよう！】 (以下、総合的な学習の時間) <ul style="list-style-type: none"> ① 知っている国の名前を書き出す ② 知っている国々をテーマごとに分類する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大陸ごと ・ 州ごと ・ 南北 ・ 貧富 ・ 安全/危険 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ①62か国 ②カード式整理法→共有
	13～17	【貿易ゲームを通して、不平等から生じる世界の問題点について考える】 <ul style="list-style-type: none"> ① 貿易ゲームを行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 7つのグループに分かれる ・ それぞれのグループに指示された製品を作り、利益を上げるよう指示をする ② 活動を通して、貿易が世界の人々の暮らしにどのような影響を与えているのか、各国の生活水準や情勢はどのような状況であるのかを知り、貿易を通して見えてくる世界の問題点について考える ③ 絶対的貧困について知る ④ 貧困が続くと、どのような状況に陥るのかを考える ⑤ 紛争が起きる原因を考える ⑥ 現実に起こっている紛争の原因を探る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源 ・ 民族対立 ・ 政治的対立 ・ スポーツ ・ 領土 ・ 貧困 ・ 外国からの干渉 ・ 宗教 </div> <ul style="list-style-type: none"> ⑦ 紛争を防ぐ方法について考える <ul style="list-style-type: none"> → 自国と他国のいいところを知れば、紛争を防ぐことができるのではないか？！ 	<ul style="list-style-type: none"> ①貿易ゲームとは紙(資源)や道具(技術)を不平等に分け与えられた複数のグループ(国家)の間で、できるだけ多くの富を築くことを競うシュミレーションゲーム。 ②貿易ゲームを通して見えたよい点と問題点を対比表にまとめる→直し読み ③絵本「ぼくがラーメンたべるとき」パワーポイント ④派生図→共有 ⑤因果関係図→共有 ⑥資料「世界の国を知る世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来」 ⑦派生図→共有
18～25	【紛争のない世界を目指して～自国のいいところ・他国のいいところみんながってみんないい～】 <ul style="list-style-type: none"> ① 8つのグループに分かれ、8つの国の紛争問題とよいところについて調べる ② 調べた国について発表し、紛争経験国と肯定的に出会う ③ 世界が平和であり続けるために、自分にできることについて考える <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> イエメン、中国、ボスニア・ヘルツェゴビナ、エルサルバドル、スーダン、カンボジア、ウガンダ、ルワンダ、コンゴ、日本の中から選択 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ①資料「世界の国を知る世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来」、インターネット、図書 ②授業参観、③行動計画書→カクテル・パーティー方式 	
成果	国語科の教科書の単元を利用して、世界の問題点について考える機会を作ることにより、時間数を確保することができた。また、貿易ゲームでは、国家間の不平等な条件が原因となって紛争が起こる仕組みを体験型で学習することができ、その後の貿易ゲームを通して見える問題点についての議論を活発に行う姿が見られた。今後の活動を通して、児童の国際理解が高まっていくように実践を進めていきたい。		
課題	総合的な学習の時間があるものの、なかなか開発教育を実践する時間を確保できないことが課題の1つとして挙げられる。実践内容については、現在実践中のため、実践終了後にしっかりとまとめ、来年度の実践に生かしていきたいと思う。		
備考	【参考文献/資料】 ・「世界の国を知る世界の国から学ぶわたしたちの地球と未来」(公財)愛知県国際交流協会 ・「目で見る世界の国々 38 イエメン/ 53 中国/ 54 カンボジア」国土社		

未来がよりよくあるために

11

所属	愛知県江南市立古知野南小学校	実践者	加藤 千智
対象	小学6年生	時間数	7時間
場所	教室	実践教科	国語
ねらい	私たちの生活が世界とつながっていることを知り、よりよい未来をつくる一人として自分にできることを考え、意見文にまとめる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆ よりよい未来ってどんな未来？ ①「平和のとりでを築く」を音読し、学習の見直しをもつ。 ②原爆ドーム保存についての賛否を教科書から読み取る。 ③原爆の傷跡を保存することについての自分の考えを書く。	
	2	◆ 世界の平和について考えてみよう ①「平和のとりでを築く」に書かれた筆者の主張を読み取る。 ②見聞きしている世界情勢について話し合い、平和についての自分の考えをまとめる。	・野外民族博物館「リトルワールド」での活動写真
	3	◆ 世界は広い！いろいろな国や文化がある！ ①グループ対抗で白地図に知っている国名を書き込む。 ②エチオピアの写真や統計資料から、日本との違いについて話し合う。	・エチオピアで撮った写真 ・エチオピアと日本の対比表
	4	◆ 学校に通う意味ってなんだろう ①エチオピアの小学校の就学率が95%であることを知る。 ②「1日1.25ドル以下の暮らし」を読み、絶対的貧困の問題を抱えていることを知る。	・エチオピアで撮った写真 ・「1日1.25ドル以下の暮らし」
	5	◆ 貧困ってどういうこと？私たちの生活と関係ある？ない？ ①貿易ゲームの説明を聞く。 ②貿易ゲームを通して、分かったことを話し合う。	・貿易ゲームセット
	6-7	◆ 未来がよりよくあるために～私たちにできることを考えよう～ ①休み時間や家庭学習で得た情報も活用しながら、世界の情勢や課題について考え、自分にできることは何かを考える。 ②一人一人が未来をつくる担い手であることを意識し、友達の意見文と読み比べる。	
成果	エチオピアの抱える課題を写真や統計資料から読み取り、世界の絶対的貧困について考えるきっかけとなった。また、貿易ゲームを通して、自分の生活と世界のつながりに気づき、多面的・多角的にこれからの未来について考えることができた。		
課題	子どもたちが触れている世界情勢に関する情報量には差があるため、持続可能な社会を目指すための課題をより身近に感じさせるための魅力的な教材を精査していかなければならない。		
備考	総合的な学習の時間において、「世界に学ぶ、世界発見！」というテーマを設定し、加速度的にグローバル化の進む世界の現状について調べ学習を行った。		

未来がよりよくあるために

12

所属	愛知県蟹江町立蟹江小学校	実践者	加藤 寿恵
対象	小学6年生(30人)	時間数	12時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	外国の様子を調べることで世界の課題を知り、よりよい世界をつくるためにできることを考え、発表する。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	日本と世界がどのようにつながっているのだろうか ・日本にあるアフリカと関係があるものが多いことに気付く。 ・世界にはどんな問題があるのか話し合う。	・パワーポイント
	2・3	水はどれだけでもあるものなのだろうか ～「水が限りのある資源」だということを知る～ ・私たちが使える水はどれだけあるのでしょうか。 ・日本のバーチャルウォーター総輸入量について知る。	・パワーポイント
	4・5	貿易ゲームをしよう～世界に経済格差があることに気付く～ ・クラスを6グループに分け、それぞれのグループの資源や技術に格差をつけ貿易のシミュレーションゲームをする。 ・ゲームを通して、感じたことや問題点について考える。	・貿易ゲーム
	6・7	人々はなぜ飢えているのだろうか～貧困の連鎖について気付く～ ・写真を見て、人々が飢えている原因を考える。 ・どうして貧困に陥ってしまうのか、貧困の悪循環について考える。 ・ムハンマドさん一家を救え！貧困を解決する方法を知る。	・フォトランゲージ ・貧困の輪カード
	8	「豊かさを感じる」と「幸せを感じる」はなにか考えよう ・生活をしている環境が異なっても、人が感じ方は同じことに気付く。	
	9・10	日本の当たり前は世界の当たり前？ ～自分の認識と他の人の認識に違いがあることを知る～ ～文化や価値観が違っても「されて嫌なこと、されて嬉しいこと」があることに気付く～	・パワーポイント
	11・12	未来がよりよくあるために、「自分ができること3箇条」を考え発表しよう ・3箇条をまとめる。(個人)、発表をする。(全体) ・学習をふりかえる。	
	成果	水や食料など身近な資源に関する世界の課題や、ニュースなどで取り上げられている難民などの問題について幅広く学習していく中で、普段の生活と世界の結びつきの強さに気付くことができた。また、世界の良い点や課題点の両面を理解した上で、自分ができることを意欲的に考え発表することができた。	
課題	当初は、学年全体で取り組もうと考えていたが、時間の配分などの問題で自身の学級のみでの実践となった。教員間での理解を促し、どの教員でも国際理解教育が進められるよう取り組みやすいカリキュラムを立てることが課題として残った。		
備考			

響 ～あなたから世界へ・あなたから未来へ～

13

所属	愛知県蟹江町立新蟹江小学校	実践者	村田 義剛
対象	小学6年生(69名)	時間数	30時間
場所	教室 体育館 家庭科室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国々への興味・関心を持ち、多様性や共通性を楽しみながら学ぶことができる。 ・世界で起きている課題に気づき、世界のために‘自分にできること’を考え、行動に移すことの大切さに気付くことができる 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～10	【見て・聞いて・触れて。多くの国々と出会おう！】 ① ワークショップ版「世界がもし69人の村だったら」 1 アイスブレーキング 2 世界の人口比率を大陸に分けて見てみよう 3 世界の識字率ってどれくらい？ 4 貧困って何?? ② 教師海外研修経験をお持ちの先生方による出前授業(ガーナ・ラオス) 世界の食文化・生活様式の違い・各国で起きている課題を考える。 ③ JICA 中部・リトルワールドへの分散学習 ・JICA 中部では、協力隊として活躍された講師の方のお話を聞き、世界の国々への知識を深め、ワークショップで学びを共有。 ・リトルワールドでは各国の建物・食に触れ、学んだことをはがき新聞にまとめて共有。	
	12～15	【先生、パラグアイへ行く！】 その前に…パラグアイってどこ？パラグアイって何？を解決するため、 ① 10年前にパラグアイで協力隊として働いていた先生による出前授業 お茶を回し飲み？結構田舎…。衣装かわいい！ご飯美味しいのかなあ？ ② パラグアイと日本が繋がれるものを作ろう！ 1 日本の新聞・広告・折り紙でしおりづくり 2 メッセージボードづくり	
	16～17	【先生、パラグアイから帰ってきた！】 ① パラグアイで先生、こんなこと見てきました！ 1 先生が見てきたパラグアイ(クイズ) 2 この写真の物語を想像しよう(フォトランゲージ) 3 パラグアイ国内の格差ってどうして生まれるの？ 4 格差のない社会を作るために必要な力	
	18～23	【貿易ゲームをしよう！世界で一番遠い距離って??】 ① 貿易ゲームをして、世界経済のお金の回りを体感する。 世界の経済活動を体感→格差が生まれてしまう…。 1 格差のない社会を作る方法を考えたのに…その思いを邪魔したもって何だろう？ 2 考えることはできるけど、行動に移すことは難しい【世界で一番遠い距離】 ② パラグアイが発展し始めているのはなぜだろう？ 他国で、誰かのために活動をしている人・してきた人を紹介する。(現地で撮影したDVD) ③ 今自分たちが学ぶべきこと・必要な力はなにかを考えよう(KJ法)	
	24～30	【パラグアイ project】 ① パラグアイで活躍されている協力隊の方々を応援しよう！ 応援DVD作成 メッセージボード作成 パンフレット・ポスターで学びを紹介	
成果	年度当初に総合的な学習の時間の年間計画を綿密に詰めることができたので、子どもたちが多くの国と出会う体験をする機会を設けることができた。「世界をよりよくしたい」というきれいごとだけで終わるのではなく、小学生の自分に今何ができるのかを考える機会を与えられたことで、子どもが世界に対してより主体的な関わりをすることにつながられたと思う。		
課題	こちらが提示した国は出会わせることはできたが、子供が一人一つの国を決め、自身でその国について調べられるような経験を取り入れることができたなら、より主体的に世界の国々と出会えたと考える。		
備考			

新しい世界への扉を開けよう！

14

所属	春日井市立鳥居松小学校	実践者	油浅 重里
対象	小学6年生 58名	時間数	12時間
場所	教室・コンピュータ室・リトルワールド・京都	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・自国、他国の文化の素晴らしさに気付く ・世界には様々な文化や価値観があり、その全てが尊重されるべきものであるという意識を育む ・様々な価値観を認め、周りの人に思いやりをもって接するという行動につなげる 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	パラグアイについて知る ○「パラグアイってどんな国!？」 パラグアイの様子を写真やクイズ、実物を通して紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの写真 ・パラグアイ BOX
	2~3	興味のある国について調べる ○「興味のある国について調べよう!」 国旗、人口、面積、宗教、言語などの基本情報について調べる。 ●「リトルワールドへ出かけよう!」 外国の衣食住の文化に触れ、異文化への理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・社会見学 リトルワールド
	4~5	日本の文化について知る ○「日本の伝統文化について調べよう!」 修学旅行の行き先と日本の伝統文化について調べる。 ●「修学旅行へ出かけよう!」 日本の伝統文化に触れると共に、外国人観光客へのインタビューを行う。 ●「外国人留学生と交流しよう!」外国人留学生へのインタビューを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行 京都・奈良 ・中部大学留学生 交流会
	6~8	世界の国々の文化について知る ○「世界の国々と日本のつながり、似ているところ、違うところを見つけよう!」 衣食住の文化、あいさつ、観光地や世界遺産、子どもたちの生活、学校の様子、国の印象などを調べ、パワーポイントにまとめる。 ●「鳥小6年 World Tour」学習発表会で世界の様々な国を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物 日本文化との対比
	9~10	争いの原因を考える ○「私たちはどうしてけんかしてしまうの?」 “私の当たり前は、友だちの当たり前?”のアクティビティ後、派生図で争いの原因を探り、行動化への気付きを与える。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「わたしの当たり前=あなたの当たり前?」
	11~12	行動化につなげる ○「どんな未来になるといい?できることを考えよう!」 “となりのまじよのマジョンナさん”のアクティビティ後、よりよい未来のために、自分にできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本 「となりのまじよのマジョンナさん」
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・自国と他国の文化には違いが見られるが、それぞれに素晴らしさがあることに気付くことができた。 ・外国の方と交流することのおもしろさに気付き、母国は違っても同じ人間であると感じることができた。 ・世界で起きる争いの原因と、身近なところで起きる争いの原因に類似点があることに気付き始めた。 	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・2~3学期にかけて、学校行事と関連させて国際理解教育を行ってきた。そのため、最後の「行動化につなげる」授業の実施が3学期の終わりになってしまった。できればもう少し前の時期に行い、本当に子どもたちの普段の行動につなげることができたか、検証できるとよかった。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・最後にパラグアイの小学校と、手紙での交流を行いたいと考えている。 		

調べて考えて想像して、考え続けていこう～世界の中の日本～

15

所属	沼津市立戸田小学校	実践者	加藤 奏太
対象	小学6年生	時間数	10時間
場所	6年1組教室	実践教科	社会・国語
ねらい	国際社会の存在や国際社会が抱える問題や日本との繋がりに気付き、問題解決に向けて、自分なりの考えをもったり、より国際社会に対して興味をもって考え続けたりすることができるようにする。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	導入 「国名ゲーム」「日本との繋がりゲーム」 →世界にはいろいろな国があって、繋がっている国がたくさんあるんだな。	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなニュースから、外国への関心を高める。(新聞を活用) ・自分がこれまでの経験で知っているイメージから、考える。 ・教科書や資料集の文や写真から読み取る。 ・情報を共有していく際には、特に写真を見ること、日本との共通点相違点を中心に学習を深めていく。
	2	→ 国と繋がっているってどういうことだろう？ 「身近な国について調べよう」 場所・首都・言語・人口・宗教・国旗から、その国を考えよう →その国には、どんな特徴があるのかな。もっと調べてみたい。	
	345	「身近な国の中から、自分が興味をもった国について調べよう」 「アメリカ合衆国」「中国」「韓国」「サウジアラビア」(教科書より)について調べよう。 →基本情報(国名・首都・場所・面積・言語・宗教)に加え、衣・食・住にその国の特徴について考える。そしてさまざまなところで、日本との繋がりがあることを知る。→発表することでお互いに調べた情報を共有する。 →さまざまな国で、それぞれの特徴や文化があるんだな。もっと知りたいな。	
	67	「世界の問題を知ろう」11枚の世界の問題を表した写真を11名の子どもたちに担当させ、 1写真だけで考える。 2国名と題名で考える。 3裏面に記載した解説から考える。 4発表して共有し合う。→世界には多くの問題があるんだな。 →何か僕たちにできることはあるかな。	
	89	(国語)パネルディスカッションに向けて 「世界のために自分ができることを考えよう。」 世界のために頑張っている団体のホームページを見て調べ ・今、世界のためにできることを紹介する。 ・今、自分にできることを考える。→いろいろな人が地球のためにがんばっている。自分にもできることがあるかもしれないな。	
	10	作成したパネルをもとに、「持続可能な社会」について考える。 →地球のこと、これからも考えていこう。	
		A酸性雨 B地球温暖化 C熱帯林減少 D砂漠化 E大気汚染 F環境汚染 G戦争 H飢餓 Iテロ F難民問題 H紛争(資料集より)	
		紹介したHP ユニセフ AMDA ユネスコ 国境なき医師団 JICA WWF 赤十字	
		・さまざまな立場で、世界のために活動している人があることを知り、これからも考え続けていくことができるようにする。	
成果	ジグゾー学習により、一人一人が自覚をもって学ぶことができたと感じている。世界には多様な問題があることから、すべてを学ぶことはできない。まず1つを責任をもって学ぶことで、興味をもつことができた。		
課題	テストや時数の関係も考えていくと、単元が子ども主体ではなく、教師主体になってしまった。限られた時間の中で多くの学習を入れていかねばならず、子どもの思考の流れに寄り添えなかった。		
備考	社会6年下(東京書籍)P58～111資料集(ぶんけい)P104～113 国語6年下(学校図書)P24～31		

国際協力の素地を身につけ、国際交流をしよう

16

所属	浜松学院中学校	実践者	鈴木 翔大
対象	中学1年生	時間数	24時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りや世界の当たり前にあるものを知り、自分の環境が恵まれていることに気付く ・ 自分がいる環境が恵まれていることに気付く ・ 人に支えられていることに気づき、思いやるために大切なことを考える ・ 日本だけでなく海外の仲間に視野を通して、様々な国の状況を学ぶ 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-2	<u>身の周りの当たり前にあるものと世界の当たり前を知る</u> フォトランゲージを使い、日本と水の環境が違うことを確認する。そして派生図を用いて当たり前にあるものの存在価値を考えて、自らの当たり前と世界の当たりの違いを知る。	エチオピアで撮影した水貯めの写真、井戸の写真、模造紙、ペン、パワーポイント
	3-4	<u>自分がいる環境について考えよう</u> 日本とエチオピアのデータ対比表を用い、日本と比べた世界の現状を知る。また、「もしも学校に行かなかった場合」と「学校に行くことのできるか」を考え、自らの置かれた環境が恵まれていることを知る。	対比表(就学率・寿命・電気使用量など)、模造紙、ペン、パワーポイント
	5-7	<u>支え合いについて考えよう</u> 生活が他の人の支えで成立することに気づき、自らも支えることができるように宣言をする	付箋、模造紙、ペン
	8-10	<u>国際交流校の国について学ぼう</u> 国際交流相手であるキルギスについて授業そして JICA 中部なごや地球ひろばへの訪問プログラムを通して知る。	パワーポイント、A3 用紙、ペン JICA 中部訪問
	11-12	<u>国際交流校とお互いに自己紹介をしよう</u>	自己紹介カード、色鉛筆
	13-16	<u>国際交流校にプレゼントをしよう</u> 日本の四季をテーマにしたちぎり絵を製作する。	折り紙、額、糊
	17-19	<u>国際交流校とスカイプで繋がろう</u> 相互に事前に調べたお互いの文化や情報を交換、発表	Skype、インターネット、PC、web カメラ、情報ソース
	20-24	<u>国際交流校と絵の共同制作をしよう</u> テーマをもとに国際交流校と絵の共同制作	キャンパス、絵の具、筆
成果	学習者の普通の学校生活の中で、細かいことに対する気配りや感謝の気持ちが見られるようになった。また、海外の現状を知ることで海外に興味を持ったり手を差し伸べる方法はないのかという声が聞こえてきたりした。また、英語を使うことへの積極的な姿勢も見られた。		
課題	開発途上国の現状を知ることで「日本は恵まれている」ということで学びが止まってしまい、その先まで深めることができなかった部分もあった。また交流に関しては、輸送やインターネット環境などの問題でスムーズにいかない面もあった。		
備考	第1回のアクティビティは公益財団法人浜松国際交流協会、JICA 中部、はままつ国際理解教育ネット共催の「国際理解教育ファシリテーター養成講座第4回」でも実践した。		

夢みる力～自分と世界をつなぐ～

17

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	児玉 やこ	
対象	中学1年生(146名)	時間数	30時間	
場所	教室・体育館	実践教科	総合的な学習の時間	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢(目標)をもって、その実現に向けて前向きに取り組むことができる。 ・仲間とともに、気づき・考え・行動することができる。 ・グローバルな広い視野をもち、学びや体験を自分の生き方につなげる実践力を身に付ける。 			
実践内容	回	プログラム	備考	
	1	<1学期「世界と出会う」> ・ どうなっているの？世界と日本	・ 冊子「どうなっているの？世界と日本」	
	2	・ 世界一大きな授業	・ 図書「世界のともだち」	
	3～6	・ 自分が出会った世界を紹介しよう(調べる→まとめる→プレゼンする)	・ 図書「わたしはマララ」	
	7	・ JICAエッセイコンテスト・プランジャパン読書感想文	冊子「SDGs」	
	8	<2学期「世界を知る」> ・ パラグアイってどんな国？ パラグアイの写真から(フォトランゲージ・KJ法)	・ 教師海外研修の写真	
	9	・ 世界はつながっている！ つながっていると思うこと(プレスト)・どんな世界になってほしい(派生図)	・ 教師海外研修の写真	
	10	・ 世界の課題って何だろう？ どんな課題があるだろう(リストアップ)・課題の原因は何だろう(因果関係図)	・ ゴマ(実物)	
	11・12	・ 貿易ゲーム	・ 教師海外研修の写真	
	13	・ 貧困の連鎖を断ち切ろう	・ 世界のデータ	
	14～22	・ 校外学習「緑の夢って何JICAR？」(なごや地球ひろば・トヨタ産業技術記念館) (事前学習→訪問・見学→まとめ→プレゼン)	・ SDGs展示	
	23	・ SDGsに向けてできること	・ ウガンダ給食	
	24	・ パラグアイで活躍する日本人	・ 冊子「SDGs」	
	25	・ ぼく・わたしは何をする？ 地球市民としてできることを考えよう(行動計画表)	・ 教師海外研修の動画	
	26	<3学期「生き方を考える」> ・ 夢をもつてすばらしい！ パラグアイで見つけた夢・夢をもつとどんないいことがある(派生図)	・ 教師海外研修の写真 や動画	
	27	・ ラオスで活躍する日本人	・ ラオスで活躍する青年 海外協力隊の動画	
	28	・ 働くってどういうこと？	・ 中学生活と進路	
	29	・ 夢を叶えるために 夢を叶えるために必要なこと(力の分析)・決意表明(文章化)		
	30	・ 1年間を振り返って・来年度に向けて		
	成果	年間を通して、国際理解とキャリア教育の参加型授業を実践し、仲間と意見を交流させながら学びを深めることができるようになった。パラグアイと肯定的に出会うことで世界に興味を抱き、世界と自分がつながっていることを実感することで、世界の課題のために一歩踏み出すことができた。		
	課題	生徒が自ら考えたり気付いたりするためのきっかけとなる資料の精選が必要であると感じた。また、生徒の考えを深める効果的な資料の提示方法やタイミングを熟考したい。		
	備考	来年度は、総合的な学習の時間と行事(職場体験・広島平和学習)をリンクさせ、社会貢献を意識したキャリア教育と、世界の平和と世界中の人々の幸せ実現のための国際理解教育を進めていきたい。		

自分の目で確かめ、考えよう！私たちはみんな同じで、みんな違う

18

所属	愛知県名古屋市立守山東中学校	実践者	佐藤 仁美
対象	中学1年生	時間数	4時間
場所	教室	実践教科	英語、道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの情報や、一部の情報だけにとらわれずに、自分の目で見たり、考えたりして、情報を取捨選択し、行動ができる。 ・日本とエチオピアの共通点に気づき、日本との違いを肯定的にとらえることができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>◆ メディアからのエチオピア情報を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「グループ対抗3択クイズ」で、数字から見えるエチオピアの情報を知る。 ・「世界がもし100人の村だったら『エチオピア・アベティ』を見て、テレビ番組を通してエチオピアの情報を知る。 ・「マラソンランナーエチオピア代表リレサのデモ」についての新聞記事や、インターネット上の子どもたちのインタビュー記事などを通してエチオピアの情報を知る。 ・エチオピアのイメージ「エチオピアってこんな国①」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント「クイズ エチオピア」 ・「エチオピア・アベティ」の動画 ・デモについての新聞記事 ・インターネットの記事
	2	<p>◆ 先生が見てきたエチオピア情報を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師が撮ってきた写真から見えるエチオピアの情報を知る。(フォトランゲージ) ・教師が撮ってきた動画から見えるエチオピアの情報を知る。 ・グループで、エチオピアと日本の「似ている所」を箇条書きする。 ・エチオピアのイメージ「エチオピアってこんな国②」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアで撮影した写真8枚とそれぞれの解説カード ・エチオピアで撮影した小学生のインタビュー、大縄に挑戦する動画
	3	<p>◆ エチオピアを体験しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がエチオピアで買ってきた物に実際に触ってみる。 ・「エチオピアってこんな国①」と「エチオピアってこんな国②」を比べ、気づいたことをグループでまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エチオピアの物(服、楽器、コーヒー豆、コーヒーセレモニーグッズ、ほうき、十字架、お金など)
	4	<p>◆ メディアリテラシーについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「インジェラってどんな食べ物？食べてみたい？」をテーマにグループで話し合う。 ・「メディアに惑わされずに真実を探るために大切なこと」を考える。(KJ法) ・「メディアに惑わされずに真実を探る、私の3ヶ条！」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「インジェラとは・・・」インジェラについて2パターンの情報が書かれたカード
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は教師の体験した話や写真、動画、実物等に触れて、エチオピアを身近に感じ、共通点を発見し、日本との違いも興味深いと肯定的にとらえることができた。 ・一部の情報だけにとらわれずに、自分の目で見たり、考えたりすることの大切さを体感できた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアリテラシーについて学んだ後、実際に何ができるかを考えるところで、もっと身近なテーマにも触れながら、じっくり考えるアクティビティがあるとさらに学習が深まったと感じる。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元を学習後、英語の授業でグリーティングカードを送ろうという単元があったので、エチオピアの子どもたちに年賀カードを送りたい生徒を希望制で募り、32通の年賀カードをエチオピアに送った。 		

エチオピアから考える、私たちのよりよい未来のこと

19

所属	岐阜県関市立下有知中学校	実践者	吉田 麻里子
対象	中学1年生	時間数	5時間
場所	体育館、教室	実践教科	社会科、総合的な学習の時間
ねらい	エチオピアと肯定的に出会い、日本との同一性に気づくことができる。また、エチオピアの抱える問題に気づき、私たちのよりよい未来を築くために大切なことを考えることができる。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	アフリカ、エチオピアってどんなところ！？ ① アフリカといえば？ 知っていること、イメージを書き出す。その後全体で交流する。 ② エチオピアクイズ！ 場所、食べ物、言語、民族、宗教、就学率などについて、グループで相談し、クイズに答える。正解や解説を聞いたり、関連の動画を観たりする。 ③ 日本と似ているところ、違うところはどこだろう？ クイズや解説から気づいたことを対比表にまとめる。	・模造紙、ペン、 三択クイズセット 現地で購入したもの ・ブレインストーミング ・クイズ （パワーポイント） ・対比表 ・現地で撮影した写真 や動画
	2	エチオピアの人々の生活って！？ ① 自分にとっての生活に必要なものランキング！ ② エチオピアの子どもたちはどんな生活をしている？ 与えられた写真がどのような写真なのか想像し、グループの仲間に伝える。写真の解説を聞き、実情を知る。 ③ 学校に行けないとどうなる？ 貧困の連鎖について考える。 ④ この貧困の連鎖を断ち切るためには？	・現地で撮影した写真 （児童労働、学校、 環境、井戸など）、 ・フォトランゲージ ・「貧困の連鎖」カード
	3	世界の中のアフリカって何だろう？ ① 世界の現状について知ろう！ A～Fまでのグループに分かれ「新・貿易ゲーム」を行う。 ② 活動を振り返ろう	・「新・貿易ゲーム」の セット
	4・5	私たちのよりよい未来のために・・・ ① 自然環境、産業、文化の特色について確認する ② アフリカのモノカルチャー経済の現状やアフリカの抱える課題を知る ③ 自分たちにできることって何だろう？	・教科書 ・前時までの資料
成果	生徒が「知らなかった国エチオピア」に関心をもつことができた。また、参加型の手法を用いることで生徒が意欲的に活動に参加することができた。活動を通して、途上国に対する思い込みがあることに気づき、自分たちの暮らしと関連づけ、自分にも何かできることがあるのではないかと考えることができた。		
課題	現地で多くの資料を手に入れることができたが、それらを教材化することについて工夫が必要だと感じた。限られた時数の中で、何を一番伝えたいか精選したい。		
備考			

NIC 地球市民教室スリランカ編～私の当たり前は世界の当たり前!? ～

20

所属	(公財)名古屋国際センター	実践者	松田 泰暉
対象	中学1年生(17名)	時間数	70分
場所	名古屋国際センター 3F 第二研修室	実践教科	社会見学
ねらい	①外国人講師の講演から外国について知り、WSの中で整理し、外国についてより理解を深める。 ②日本の「良い点」、外国の「良い点」を比較し、肯定的に外国と出会う。 ③日本の生活が当たり前ではなく、多様な価値観があることに気付く。		
実践内容	時間	プログラム	備考
	5分	(1)流れの説明・講師の紹介・スリランカってどんなイメージ!?	講師: NIC 地球市民教室※講師 ガジャナヤカカーンティ(スリランカ) PP、スリランカで使うもの、A4紙
	20分	(1)NIC地球市民教室講師による母国紹介(スリランカ) 【テーマ】i 毎日食べるもの ii 気候⇒普段着ている服 iii 中学校生活 ・アイスブレイクも兼ねて、クイズを交えた講演を実施。	模造紙、ペン
	15分	(2)母国紹介の整理 ・グループごとに対比表で(1)の講演内容 i～iiiについて整理・日本とスリランカを比較 ⇒日本の生活と比較・整理することでスリランカへの理解をより深める、日本について振り返る。	模造紙、ペン
	15分	(3)日本とスリランカのよいところを比較 ・対比表を使用 ⇒肯定的にスリランカと出会う。 スリランカと比較し改めて日本の良さに気付く。	模造紙、ペン
	7分	(4)(3)についてギャラリー方式で共有。 ・「いいな」と思った意見には☆印	ペン
	5分	(5)母国紹介を聞いてびっくりしたことは!? 生徒にはスリランカ、講師には日本についてびっくりしたことをインタビュー。 ⇒日本人にとって当たり前が他の国にとって当たり前でないことに気付く。	
3分	(6)まとめ ・その国をイメージで判断するのではなく、自ら学んで理解を深めてほしい。 ・日本の当たり前は世界の当たり前ではない。みんな違ってみんないい。		
成果	・スリランカの情報は資料ではなく講師の講演なので、生徒は興味を持っていた。 ・母国紹介の整理をした後だったので、「よいところ」の意見がたくさんでた。 ・日本と比較をすることで、スリランカだけでなく日本のよさも再確認できていた。		
課題	日本をまとめる生徒、スリランカをまとめる生徒と分担されていたので、グループ全員の作業となるワークを1つ取り入れる必要があった。また、今回は「異文化理解」の授業だったが、今後は今回のワークを参考に「多文化共生」の理解へとつなげるワークを考えていきたい。		
備考	※NIC 地球市民教室とは、名古屋国際センターに登録した外国人を学校や非営利団体に派遣し、母国の文化紹介を行う事業である。		

学ぶと人生変わります！

21

所属	愛知県犬山市立城東中学校	実践者	金尾 亜生子
対象	中学2年生	時間数	2時間(50分×2)
場所	教室	実践教科	道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 世界には、基礎的な教育を受けられない同世代の生徒が大勢いることを知り、この現状について考えさせる。 学校に行けないことから派生する負の連鎖を知り、「教育」の持つ意味を考え、学ぶことの大切さを再認識させる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	1. 自分にとって学校は何するところ？ <ul style="list-style-type: none"> A3の紙にグループで派生図を書く。 回し読みをして、他のグループのいいところに印をつける。 	カラーマジック A3用紙 グループ分
	2	2. 世界の現状を知ろう。 <ul style="list-style-type: none"> 資料①『学校に行けない世界の子どもたち』のP1～4を読んで、現状で印象に残った部分に線を引き、グループで紹介し合う。 お金の問題以外で学校に行けない理由を資料②『集まれ！地球の教室』P3を見ながらグループで考える。 思ったことを感想に書く。 	資料① 人数分 資料② グループ分 感想用紙 人数分
	2	3. 教育が受けられないことで起こる負の連鎖を考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> 資料③『国際理解教育実践資料集 P22 教育が受けられないことで起こる“負の連鎖”を考える』を使って、学校に行けないことにより生じる問題を考え、その問題から順々に派生する問題へとつなげていく。 負の連鎖の状況を見て、どうすればこの状況から抜け出せるかを話し合う。どういう取り組みをするのが負の連鎖を断ち切るのに最も効果的かを考える。 	カラーマジック 資料③のカード グループ分 カードをはる A3用紙 グループ分
		4. どうして教育を受けることが大切なのだろう。 <ul style="list-style-type: none"> 「学校へ行けない＝教育を受けることができない」ということ。では、なぜ、教育を受けることが大切なのか、教育を受けることのメリットは何か話し合い、リストを作る。 資料④『学校に行きたい P14 世界の人々が安心して生活できる社会をつくるために日本はどんなことをしているの？』を読んで、日本が行っている支援の様子を知る。 教育の大切さを認識させる。 今回の授業の感想を書く。 	A3用紙 グループ分 資料④ 人数分 感想用紙 人数分
成果	世界の現状を知らせること、教育の大切さを伝えることができた。仲間との学び合いでいろいろな意見を知ることができ、内容を深めることに役だった。		
課題	時間が限定されており、多くの資料を提示することができず、子どもの思考を深めさせることができなかった。時間を確保し、もっと流れのあるプログラムが作れるとよかった。		
備考	<参考文献> JICA 『学校に行けない世界の子どもたち』、『集まれ！地球の教室』、『学校に行きたい！』、『国際理解教育実践資料集』		

世界の平和を創っていこう！！

22

所属	愛知県弥富市立弥富北中学校	実践者	近藤 勝士
対象	中学2年生	時間数	8時間
場所	体育館、武道場	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	人類共通の課題(17の「持続可能な開発のためのグローバル目標」SDGs)に目を向け、よりよい世界をきずくための生き方や自分たちにできることを考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆『エチオピアってどんな国?』 《肯定的な出会い》 ・グループ対抗エチオピアクイズ大会を通して、エチピアを知る。【クイズ】 ・教師海外研修の様子の紹介を通して、エチオピアを知る【写真の紹介】	パワーポイント資料 エチオピアクイズ
	2	◆『エチオピアと日本とのつながり』 《つながり・同一性を見つける》 ・エチオピアの写真をスライドで見て、グループで考える。【フロンページ】 ・日本と“似ている点”と“違う点”を考え、対比表を作成する。【対比表】	パワーポイント資料 エチオピアの写真 模造紙(対比表)
	3	◆『みんな違っていい』 《多様性を認める》 ・“もしも世界中の人がみんな同じだったらどうなる?”を考え、書き出す。【フレンストーミング】 ・縦軸を「世界とクラス」、横軸を「よいとよくない」にして、二次元軸を作成する。【二次元軸】	パワーポイント資料 付箋(フレンストーミング) 模造紙(二次元軸)
	4	◆『あってよい違い・よくない違い』 《課題を見つける①》 ・以前に作成した対比表の“日本と違う点”に注目し、“あってよい違い”と“あってはいけない違い”の対比表を作成する。【対比表】	パワーポイント資料 模造紙(対比表)
	5	◆『SDGsの理解を深め、戦争の原因を考える。』 《課題を見つける②》 ・SDGsの資料を読んで、グループ内で情報交換する。【ワールドカフェ方式】 ・「戦争が起きるとどうなるか?」を考え、派生図を作成する。【派生図】	パワーポイント資料 模造紙(派生図)
	6	◆『よくない違いはどこからくる?』 《課題の原因を考える》 ・今の自分が考える世界の課題を付箋に書き出す。【フレンストーミング】 ・課題の原因を掘り下げて考え、因果関係図を作成する。【因果関係図】	パワーポイント資料 付箋(フレンストーミング) 模造紙(因果関係図)
	7	◆『世界がよりよくなるには?』 《自分にできることを考える①》 ・日常の課題を解決するための行動と阻む行動を考える。【力の分析】 ・持続可能な未来の実現のために、何を優先していくのかを考える。【ランキング】	パワーポイント資料 A3用紙(力の分析) ワークシート(ランキング)
	8	◆『世界の平和をめざして』 《自分にできることを考える②》 ・「平和とは?」を書き出し、積極的平和と消極的平和に仲間分けする。【KJ法】 ・「自分にできること」「仲間とできること」「国のできること」という視点でそれぞれ3つを考えて書く。【できることビンゴ】	パワーポイント資料 付箋(フレンストーミング) 模造紙(KJ法) A3用紙(ビンゴ)
成果	・参加型の学習を通して、生徒達が積極的に意見を出し合うことができた。また、世界に目を向け、自分たちに何かできないかと考えるようになった。		
課題	・年間を通したプログラムの作成や、総合的な学習の時間に限らず、各教科においても積極的に参加型の手法を取り入れ、生徒達の学びを深めていきたい。		
備考	・いろいろなアクティビティを経験することで、自分自身の日常の中でも、その手法を使って何か考えてみようとする生徒がでてきた。		

インドネシアを通して考える世界～学校に行ける幸せ～

23

所属	稲沢市立稲沢西中学校	実践者	瀧 亜紗美
対象	中学2年生	時間数	2時間
場所	教室	実践教科	学活2時間
ねらい	1 インドネシアと肯定的に出会う。 2 世界には教育を受けられず、学校に行けない子どもたちがいるという現状を知る。 また、教育を受けられないことで広がる問題を理解する。 3 よりよい世界をめざして、自分にできることを考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【インドネシアと出会おう】 1. <u>アイスブレイキング</u> : 世界には何カ国ある？知っている国を書こう。 2. <u>インドネシアマスターになろう!</u> : グループごとにクイズを解く。 3. <u>インドネシアを知ろう!</u> ①8枚の写真を配り、1人2枚ずつ好きな写真を選ぶ。 ②自分が選んだ写真の裏にある説明文を読んで、グループのみんなに伝える。 4. <u>インドネシアのいいところ、日本のいいところ!</u> ①それぞれの国のいいところを書き出す。 ②他のグループの意見を見て回り、いいね(☆マーク)をつける。 5. <u>ふりかえり</u> : 今日のアクティビティで感じたこと、思ったことなどを書く。	・愛知県国際交流協会『国際理解教育教材インドネシア共和国』 ・フォトランゲージ ・対比表
2	【学校に行けないってどういうこと?】 1. <u>この子はどのようにして学校に行けない?</u> ①インドネシアで出会った女の子の写真を見せ、学校に行けない理由を考える。 ②世界には学校に行けない子どもがいることを知る。 2. <u>文字が読めないってどういうこと?薬を選ぼう。</u> ①ペアで薬のコップはどれかを考える。 ②文字が読めないことはどういうことかを知る。 3. <u>学校に行けないとどうなるの?</u> ①学校に行けないとどうなるか、カード並び替えて考え、グループでひとつの繋がりを考える。 ②他のグループのものを見て、考えを知る。 4. <u>学校に行けるようにするためにはどうしたらいい?</u> ①負の連鎖を断ち切るためにできることのリストを作る。 ②他のグループのリストを見て、いいね(☆マーク)をつける。 5. <u>世界の取り組みを知ろう。</u> : 書き損じはがき、JICA ボランティア、エッセイコンテストの作文を紹介する。 6. <u>ふりかえり</u> : 今日のアクティビティで感じたこと、思ったことなどを書く。	・ポップコーン形式で全体共有 ・資料を提示する ・クメール語で書かれた3つのコップを用意する ・貧困カード ・リストづくり	
成果	参加型の手法を用いたことで、協力し合って意見を出し、学びあう姿がみられた。インドネシアと肯定的に出会い、異なる文化や価値観を知り、世界に興味をもった生徒が多かった。また、貧困カードを用いたことで、学校に行けないことで様々な問題が起こり、繋がっていることを理解できた。		
課題	よりよい世界のために自分にできることを考える時間を十分に確保できなかった。「知る」という段階で終わってしまい、行動まで繋げることができなかった。アクションプランを考える時間をつくり、共有し、自分にできることを行動に移せるようなアクティビティまで実践したいと思う。		
備考	【参考】 ・JICA 国際理解教育実践資料集 ・JICA 国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト優秀作品集		

どんなに遠くたって、私たちはつながっている！

24

所属	三重県桑名市立光陵中学校	実践者	松田 真紀
対象	中学3年生×5クラス	時間数	<50分×6>授業×5クラス 30時間
場所	音楽室、各教室	実践教科	総合的な学習の時間・社会科
ねらい	① 途上国の現状を通して、価値観の違いや、多面的なものの考え方に気付く。 ② エチオピアの課題とその原因を考え、日本や自分とのつながり気付き、解決方法を考える。 ③ 途上国で働く日本人の活動を知り、自分の生き方を考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆エチオピアってどんな国？ ・エチオピアに関心を持ち、日本と比較しながらイメージを広げる。 ・クラス対抗エチオピアクイズを学年集会で実施。（全生徒参加型）	撮影した写真 パワーポイント スキャブック
	2	◆日本とエチオピアを比較し、多面的にとらえよう ① 幸せって何なん？豊かさって何なん？ ・「幸せな時」を考えて付箋に書き出す。「幸せである」「幸せではない」「どちらとも言えない」に仕分けし、なぜそう考えたのか説明する。 ② 写真を物語ろう！ ・日本の実態（水・電気・食料・学校）について知り、情報を共有する。 ・エチオピアの写真から、「幸せではない」「幸せだ」と考えられるものを選択して、想像した内容を物語る。	☆KJ法 ☆フォトラング インターネットからのデータ資料 撮影した写真
	3	◆エチオピアの課題を知り、原因を考えよう ① 生きるために必要なものって何？ ・書き出したものを、大事な順に10位までナンバリングし、グループで6つ選択してランキングする。 ② このままだと、どうなるだろう？ ・必要なものが十分でないエチオピアを想像して記入し、共有する。 A) 学校に行けない B) 水が出ない C) 電力が不足している ③ なぜ、こんな状況になっているのだろう？ ・そもそもなぜ、このような問題が生まれたのか考える。	☆リストアップ ☆ランキング ☆派生図
	4	◆エチオピアの課題を解決する方法を考えよう ① 「貧困の輪」ワークショップ！ ・貧困カードを円形に並べ、悪循環を断ち切るアイデアを書き込み、ユニセフカードを付け足す。 ② ファーストステップ7ヶ条を作ろう。 ・「日本にできること」「自分にできること」を考える。	☆循環図 貧困カード ユニセフカード ☆リストアップ
	5-6	◆青年海外協力隊から生き方を学ぼう JICA「クロスロード」視聴	DVD プロジェクト
	成果	クイズに全員が解答する場面を導入にしたことから、未知の国であるエチオピアに生徒たちの興味関心を引き出すことが出来た。 また、学年部の若い担任団の協力を得て、全クラスで同じ授業ができたことも、生徒にとって効果的であり、様々な手法を学ぶ教師集団のスキルアップの良い機会となった。外国籍の生徒が共感しながら、母国と照らし合わせて学習する場面も印象的であった。	
課題	途上国の現状を知り、想像したり考えたりしてはみるものの、自分の生活とのつながりを強く意識して課題解決方法を深く考えるまでには至らなかった。また、知り得た情報を伝えたい気持ちが先行し、資料や写真が盛り沢山で、もう少し精選する必要があった。授業数が多く副担任であったこと、受験を控える三年生担当であったこともあり、時間の調整が難しく十分教材研究できなかったことが残念だった。		
備考	日常的に4人班のグループ学習をすべての教科で取り入れているため、動きはスムーズで、学年会議で検討した指導案を使い、すべての担任が生徒と共に学べる授業になった。		

自分にできることを見つけ、実行に移せる生徒の育成

25

所属	名古屋市立北高等学校	実践者	安藤 理恵
対象	高校1年生	時間数	10時間
場所	LL 教室・国際ホール	実践教科	英語
ねらい	① パラグアイの文化を知り、自分の生活と比較する。 ② パラグアイで日系社会について知り、自国を振り返る ③ パラグアイにおける日本人の活躍を知り、自分にできることを考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	パラグアイについて知りたいことを考えよう。 ・パラグアイの中学生に質問レターを作成	PC・A4 用紙ペン・カメラ
	2-3	パラグアイと肯定的に出会おう。 ・パラグアイの地理・文化を知る。(フォトランゲージ) ・パラグアイの高校生とメッセージで出会う。(フォトランゲージ) ・振り返り(マゴリス ウィール)	パワーポイント 写真(パラグアイボックス)
	4	共通点・相違点から、学ぼう。 ・パラグアイの発電について知ろう(フォトランゲージ) ・パラグアイの家庭について知ろう(フォトランゲージ) ・対比させてみよう。(対比表)	教師海外研修写真 ホームステイ体験報告 模造紙・ペン
	5-6	パラグアイで活躍する日本人に出会おう。 ・JICA 青年海外協力隊員の話から、国際貢献について考える。(ビデオ) (まとめポスター作成・共有) ・パラグアイの起業家から学ぶ。(資料回し読み・共有) ・振り返り(マゴリス ウィール)	インタビューVTR 模造紙 ペン JICA 中部 2016 教師海外研修資料
	7	世界に存在する日系社会について知ろう。 ・なぜ、海外へ移住したのか?(歴史) (資料の回し読み・共有) ・海外移住とはどのようなものであるのか?(資料の回し読み・KJ 法) ・日本のために、パラグアイのために、パラグアイで生きていくということ ・日本文化を大切にすると、どういうことか考える。(意見交換)	同上資料 パラグアイ日本人会連 合会資料「パラグアイ における日系人移住の 歴史」
	8-10	日本で、海外で自分にできることについて考えよう。 ・異文化理解、多文化共生に必要なことは何だろう?(リスト) ・日本を紹介しよう。(交流会でのワークショップ)	模造紙 ペン
	成果	生徒間の他者理解が深まり、それが肯定的な異文化理解へつながった。生徒達の自己肯定感が高まり、現在、自分にできることを実行に移す生徒が、複数海外ボランティア留学等を希望し応募している。	
課題	時間をゆっくりとって、ひとつひとつのタスクを深く掘り下げたい。		
備考	国際理解コースでは週に 1 時間、ファシリテーションを利用した国際理解教育を実施し、この他にも NPO(ICAN)との TV 電話での現地交流・JICA 訪問・外務省高校講座等、実施している。		

現地を訪問する前に、教育について改めて考えてみる

26

所属	聖カピタニオ女子高等学校	実践者	寺嶋 孝光
対象	高校1、2年生	時間数	1時間（90分）
場所	教室	実践教科	海外研修 事前学習
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・インドという国への関心を深め、違いや日本とのつながりについて気づく。 ・教育や文化の多様性や課題について理解し、教育の大切さに気づく。 ・事前学習を通して、研修で様々なことに気づけるきっかけを与える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>① アイスブレイキング 名刺で自己紹介①ニックネーム②研修に参加した理由 etc.</p> <p>【教育について改めて考えてみる】</p> <p>②教育が受けられるとどうなるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見を出し合い、模造紙に書き出した。 ・他グループの模造紙を回し読みし、共感した意見に☆印をつけた。 →資料「世界の就学率(初等教育)」を配布し、学校へ通うことができない子どもたちがいることを確認した。</p> <p>③フォトランゲージ(インドの学校での様子(教室・登校途中)) <ul style="list-style-type: none"> ・写真を配布し、どんな状況の写真か想像し、グループで話し合った。 ・写真についての解説を加え、インドの学校の様子を共有した。 </p> <p>④教育が受けられない原因 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが学校へ通えない理由を考え、グループ内で共有した。 →資料「学校に行けない8つの理由」を配布し、学校へ通うことができない理由はいろいろあることを確認した。</p> <p>⑤教育が受けられないとどんなことが起こるか。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育が受けられない/学校へ行けないとどのような問題が新たに起こるのかグループで考え、模造紙に書き出し、全体で共有した。 </p> <p>⑥ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内でペアになり、感想を伝え合った。また、学校へ通えることへのありがたさや重要性を分かち合った。 ・インド研修で新たにしてみたい、見てみたいことなどを分かち合った。 </p>	<p>「国際理解教育実践資料集－世界を知ろう！考えよう！－」(p.19)</p> <p>「国際理解教育実践資料集－世界を知ろう！考えよう！－」(p.19)</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「今まで以上にインドに行きたくなった！」「早くインドへ行きたい！」という声を生徒から聴けて、生徒の興味・関心を深め、刺激を与えることができた。研修を通して、自分に何ができるか考えることができた。 ・参加型学習を通して生徒が積極的に考え意見を出し合うことで、互いの信頼関係を深めることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修の事前学習の一環として行ったため、扱う国が1か国に限定されてしまった。海外に興味・関心の強い生徒が集まっているだけに、もっと広い視野で様々な分野(貧困など)を取り扱えたら良かった。 ・事後学習で研修を振り返り、自分たちにできる具体的な提案を生徒が考えられる時間を作れたら良かった。 		
備考			

自分らしく輝け 多様性

27

所属	岐阜開成学院	実践者	舟瀬 さおり
対象	高校1～3年混合	時間数	3コマ(50分×3)
場所	スクーリング会場	実践教科	総合
ねらい	<p>・世界には常識やマナーだけでなく目に見えない価値観にもさまざまな違いがあることを知る。</p> <p>・実際に起こった争いや問題から社会の現状に目を向け、誰もが幸せで生きやすい社会のために自分にできることを考えるきっかけとする。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>【起】①アイスブレイク(世界をちょっとのぞいてみよう) 思いつく国の名前をできるだけ書いて地図で確認 世界の国の数と人口当て UP & DOWN・さまざまな地図(3種類)</p> <p>②世界びっくりクイズ 各々異なった国のクイズを解き一番面白いものを他の人に出題する</p> <p>③日本の当たり前は当たり前? 日本ではふつうだが外国人にとってはびっくりクイズ(ファッションが出題)</p>	<p>途上国やアフリカの国名を思いつく人が少ない・知らない国はたくさんあることを確認する</p> <p>世界にはさまざまな違いがあることに気づく</p>
	2	<p>【承】④トンデレラ姫の物語 物語を読み合わせ登場人物5人を許せる順にランキング(理由も言う) グループ内、全体共有でそれぞれの価値観に違いがあることに気づく</p> <p>⑤どんな違いがあるだろう? 人によって違いがあるものをBSで共有・確認(身長・文化・宗教・など)</p> <p>【転】⑥もし違いを認めなかったらどうなるか派生図</p> <p>⑦実際に起こった世界の紛争・問題 フォトランゲージ グループ内個々に違う資料を渡し各自説明する。 その後全体で確認</p>	<p>同じ順番であっても理由が違うこともある</p> <p>ポップコーン形式で発表して板書</p> <p>派生図の書き方を説明してから行う</p>
	3	<p>【結】⑧もし違いを認め合ったらどうなるか派生図</p> <p>⑨「どんな違いがあっても誰もが堂々と自分らしく生きていける社会」のために、自分ができること(できるといいなと思うこと) 社会に提案したいこと 各自 A4 にまとめ、グループ内共有、全体共有</p>	<p>必要があればテーブルファシで派生図が広がるようアシストする</p>
成果	<p>本校は不登校を経験し、普段から他のひととの違いを感じている生徒が多い。違ってもいい、むしろ自分の個性を大切にしようと感じ、またほかの人への気遣いも考えるようになったという振り返りが多かった。また生徒それぞれが社会とのつながりを感じ社会参加意欲が高まったと感じた。</p>		
課題	<p>世界のさまざまな違いを知る部分において、クイズ形式にしたが単調になりやすいと感じた。もう少し気軽にできるゲームのような方法で知るアクティビティを考えたい。</p>		
備考	<p>最初のアイスブレイクで発言しても否定されない安心できる場づくりは非常に大切だと感じた。今回は初対面の生徒が数人参加したが発言が苦手な生徒も意見が言える肯定的な雰囲気が全体的にあった。</p>		

パラグアイの同級生から学ぶ「大切なもの」

28

所属	大同大学大同高等学校	実践者	市江 文奈
対象	高校2年生	時間数	5時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	パラグアイと肯定的に出会い、日本とのつながりを知り、異文化理解の楽しさに気づく。 パラグアイの同級生の生活や考え方から、自分の環境を振り返り、「当たり前」の大切さに気づく。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【パラグアイってどんな国？パラグアイと出会おう】 ① 「南米」「パラグアイ」と聞いてのイメージを書き出し、ポップコーン方式にて発表する。 ② パワーポイントの説明を聞いて、パラグアイの概要を知る。 ③ 説明を聞いてからのパラグアイの印象を書き出し、ペアでシェアする。	パワーポイント ワークシート、ペン
	2	【パラグアイでのホームステイ体験】 ① テレレ文化の紹介を聞く。スペイン語とグアラニー語の練習をする。 ② テレレを体験する。 グループごとに、パラグアイチームと日本チームに分かれる。 パラグアイチームは日本チームをテレレしながらもてなし、日本チームは限られた言葉の中でテレレの体験をし、そのルールを見つける。 ③ 感想をグループごとに書きだし、発表しあう。	マテ茶、テレレ用のポットとコップ、ストロー、チパのお菓子 写真 ワークシート、ペン
	3	【世界の裏側の高校生の生活】 ① 自分の一日の生活を書き出す。 ② Ivan 君の一日の生活を見て、同じ／違うところを対比表に書き出す。 ③ ギャラリー方式でシェアする。 ④ 対比表をもとに、日本とパラグアイの良いところ及び課題を書き出す。	模造紙 写真 ワークシート ペン
	4	【『大切なもの』って何だろう】 ① 前回の復習 ② 自分の「大切なもの」とその理由を書き出し、ペアでシェアする。 ③ パラグアイの同級生は「大切なもの」を何と答えたか、グループごとで推測する。 ④ 答えを聞き、感想をシートに記入する。 ⑤ ギャラリー方式でシェアをした後、全体で共有する。	アンケート用紙 写真 ワークシート、ペン
	5	【協力隊の方々の活躍を知ろう】 ① パラグアイで活躍されている青年海外協力隊の紹介と映像を見る。 ② 今までの学びの振り返り ③ 感想の記入、ペアでシェアする。	映像 ワークシート、ペン
成果	生徒はパラグアイという未知の国と肯定的に出会い、国際理解教育の楽しさを感じ、積極的に授業に参加することができた。対比表づくりやグループでの参加型学習など、慣れない活動にも前向きに取り組んだ。パラグアイの同級生の話を取り上げたことも、生徒の関心を高める良いテーマとなった。		
課題	実践時間が十分に確保できず、テーマごとに深く掘り下げて考えさせられるようなアクティビティができなかった。来年度以降、一過性のものではなく、年間を通して継続できるような授業実践を考えたい。		
備考			

COP21.5—私たちの未来のために

29

所属	愛知県立天白高等学校	実践者	仙石 智津子
対象	高校2年生	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	コミュニケーション英語Ⅱ
ねらい	世界で起こっている様々な環境問題とそれに対する世界の取り組みを知り、必要な対策を考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>[アイスブレイキング] 5人1組のグループに分かれ、自己紹介する。</p> <p>起 [100年後の世界は] ①グループで模造紙に下記2点について箇条書きする。 ②共有タイム(カフェ方式) ・他グループの意見を聞き、共感マーク☆を付ける。</p> <p>承 [世界の現状] ①フォトランゲージ 写真を見てそれがどんな現象なのか、何が原因で起こったのか想像し、グループで話し合う→説明用紙を見て再度話し合う。 ②地球温暖化の影響資料 様々な環境問題の詳細をまとめた複数の資料をグループに配布し、グループ内で情報を共有する。</p> <p>結 [地球温暖化を止めるためにできること] 今回の授業で学んだことをグループで1枚の寄せ書きにする。</p>	(各8セット) A3用紙2枚 マーカー 資料①—写真 資料②—写真の説明 資料③—環境問題
	Class1 2	<p>起 [COP21 とパリ協定とは] COP21 とパリ協定についての資料を読み、説明を聞く。</p> <p>承 [COP21 の様子] COP21 のダイジェスト映像をスクリプトも見ながら見、演説者の話し方、話す内容、パフォーマンスなど、気づいたことをグループで話し合う。</p> <p>転 [私たちの主張] 前回の資料(資料③)とワークシートをもとに、グループでスピーチを作る(英語で)</p>	A3用紙 資料④—COP21 とパリ協定 資料⑤—スクリプト 資料③—環境問題 スピーチ作成ワークシート
	3	結 [発表] グループごとに発表する。	
	Class2 1	<p>起 COP21 とパリ協定についての資料を読み、説明を聞く。 承 COP21 のダイジェスト映像をスクリプトを見ながら見る。 転 日本やアメリカの参加状況や考え方を、新聞記事をもとに学ぶ。 結 世界のリーダーに手紙を書き、自分の考えを表現する。</p>	資料⑥—中日新聞社説 資料⑦—NewsWeek 記事
成果	生徒達が様々な環境問題について学び、自分なりの考えを発表できた。時間の都合上、クラスによって進め方や内容を変えたが、異なるアプローチに対する生徒の反応の違いを見ることができた。		
課題	議論を深める時間や、英作文をする時間を十分に取れなかったため、発展的な内容の発表が少なかった。普段からの練習や、十分な準備期間を取れるように工夫したい。		
備考			

分ち合わない社会で生きるとどうなる？

30

所属	愛知県立天白高等学校	実践者	谷口 加恵
対象	高校2年生	時間数	2時間(単元7時間のうち)
場所	図書室、教室	実践教科	国語
ねらい	・評論「分ち合う社会」を読解した上で、活動を通して資源を分ち合う大切さや必要性について考える。		
実践内容	回	プログラム	備考
	1 5分 30分 5分 10分	<p>学習者は本2回のプログラムまでに評論『分ち合う社会』を学習(全5回)しており、単元としては(6/7)、(7/7)の2回分を紹介する。</p> <p><貿易ゲーム></p> <p>①説明(A~Gの国に分かれてルールに従って商品を生産し、利益を出す。)</p> <p>②アクティビティ</p> <p>③結果発表</p> <p>④学習のふりかえりとゲームの目的について</p> <p>あらかじめ国によって裕福な先進国と、いくら生産してもなかなか貧困から抜け出せない発展途上国とに分かれていたことを説明し、世界の縮図になっていたことに気づかせる。資源や道具を分け合うことで、苦しい思いをする人が減らせることに気づかせる。</p>	<p>『分ち合う社会』 山際寿一 著</p> <p>JICA中部 ルールの書いた紙 白紙 鉛筆 色鉛筆 はさみ コンパス 型紙 手作りの紙幣</p>
	2 5分 10分 10分 20分 5分	<p>①前回のふりかえりと本時の内容の確認</p> <p>②<派生図>「格差をそのままにしておく…」 模造紙を回し読みして共有。いいなと思った意見にはハートマークをつける。</p> <p>③<フォトランゲージ>「モミンちゃんの家族はなぜ苦しんでいるのか」 写真の人物がなぜ苦しんでいるのか、グループで話し合い、模造紙にリストにし、ポップコーン形式で各グループから発表させ、意見を共有する。 教育よりも労働を優先させなければならない環境にいる子どもたちがいることを知り、話し合わせる。</p> <p>④感想の記入 2時間を通して感じたことを400字で原稿用紙にまとめる。</p> <p>⑤プログラム2のまとめ</p>	<p>模造紙 ペンセット 写真(JICA中部) 模造紙 ペンセット 作文用紙</p>
成果	<p>評論文の学習を通して、「富の偏在を防ぐために採集狩猟民は食物の分配をする」ことを理解したが、他人に分け与える必要性に、「貿易ゲーム」「派生図」により、環境や資源の格差で虐げられる人への共感を得て、気づくことができた。また、フォトランゲージで実際にどのようなことで困っているのかを想像することにより、世界における自分の立場を知り、感じたことを文章にまとめることができた。</p>		
課題	<p>私たちが恵まれた社会で生きていることを理解したが、実際にどのように生きることによって今後世界に働きかけてゆけるのか、意見を共有することができなかった。今後時間を作って取り組ませたい。</p>		
備考	<p>「貿易ゲーム」の他国との交渉で、生徒は自分なりに条件を考えて交渉することにより、様々な条件を提示しながら相手にはたらきかける力を身につけることができた。自国での連携プレーや分業体制など、ゲームを通して生徒の新たな一面を見ることができた。</p>		

カンボジアを通して世界を知ろう！

31

所属	岐阜県立飛騨高山高等学校	実践者	中間 優希
対象	高校2年生	時間数	3時間
場所	教室	実践教科	ロングホームルーム
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジアを通して世界に興味を持ち、世界の現状を知る。 ・世界の格差や貧困について知る。 ・貿易ゲームを通して貧困の原因について知る。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【カンボジアの「今」を知ろう！～地球市民として私たちができること～】 ①アイスブレーキング ・カンボジアについて知っていることやカンボジアのイメージを交流する。 ②カンボジアのクイズ ・カンボジアの位置や国旗などのクイズをグループで答える。 ③カンボジアについてのプレゼンテーション ・カンボジアの文化や歴史について学ぶ。 ・カンボジアの青年海外協力隊の活動内容について知る。 ④振り返り ・各自感想を書く。	
	2	【貧困とは何か考えてみよう】 ①アイスブレーキング ・自分の知っている国をできるだけたくさん書く。 ②世界の教育についてのクイズ ・世界の教育の現状についてのクイズをグループで答える。 ③貧困になると… ・貧困から連想される言葉を派生図形式で模造紙に記入する。 ・他のグループの派生図を見て良い意見に☆マークをつける。 ・今回学んだことをふまえてグループ内で貧困の定義を考える。 ⑤振り返り ・各自感想を書く。	
	3	【貧困の原因は？】 ① 貿易ゲーム ・1グループ3人から6人にわかれて貿易ゲームを行う。 ②振り返り ・クラス全体で振り返りを行う。 ・各自感想を書く。	
成果	3回の授業を通して、生徒は視野を広げるだけでなく、自分の将来、また世界が貧困で苦しむことがないようにするためにはどうすればよいのかを考えるきっかけになった。		
課題	今後は、自分たちで考えたり思ったりしたことを実行できるように、クラスや有志のメンバーで何かアクションを起こし、生徒の成功体験を積み重ねていきたい。		
備考			

カフロンヌ星人がやってきた！～多文化共生社会に参加しよう

32

所属	岐阜県立華陽フロンティア高等学校	実践者	高田 信英
対象	高校3年生(29名)	時間数	4時間(50分×4)
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間、LHR
ねらい	<p>○ 多様な文化や価値観を受け入れ、尊重する態度をとることができる。</p> <p>○ 対立を乗り越え、よりよい未来を築くための共生社会のビジョンを描くことができる。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<p>1アイスプレイング『わたしの常識 世界の非常識』</p> <p>・世界の風習から我々の身近な食生活まで、事例を挙げて ①理解できるし、積極的にできる ②理解はできるし、やれといわれたらやる ③理解ができないけど、やれといわれたらやる ④理解はできないし、やりたくないにわかれて意見交流をおこなう。</p>	※4つの部屋
		<p>2『無意識の偏見』</p> <p>・世界の人々の暮らしや行動様式から、身近なジェンダーや福祉に関わることまで、対比座標として縦軸に客観的事実と偏見、横軸に無意識と意識にして自分自身を振り返る。</p> <p>・同じ内容でも社会一般ではどうだろうか。グループで協議と発表をする。</p>	※座標軸 カード
	2-3	<p>3『宇宙人 カフロンヌが攻めてきた！！』</p> <p>・宇宙人の侵略を疑似体験するロールプレイングを行い、支配される側を共感的に理解する。</p> <p>・アクティビティ終了後に振り返りを行い、実際に植民地支配で行われたこと、失っていった物は何か共有する。</p> <p>・宇宙人と共存するためにはどうしたらよいらうか。宇宙人と地球人、相互の立場になってグループで考えをまとめる。</p>	※教材『ティフ星人 パセリを食べる』を本校の実情、ねらいに沿ってアレンジ
	4	<p>4『多文化共生社会に参加しよう』</p> <p>・①アイヌ民族の復権 ②ナイジェリアの紛争③アボリジナルの受難④マレーシアの先住民と森林法についての資料を読み、感じたことをグループで共有する。</p> <p>・アボリジナルに関するクイズにより関心を高める。</p> <p>・グループで多様な文化を受け入れるメリット、デメリットを考え模造紙に書き込む。</p> <p>・「多文化社会とは、〇〇〇の社会」「多文化社会で私は、〇〇〇」に当てはまる言葉を各自で入れ、グループ内で発表と交流をおこなう。</p>	※愛知県国際交流協会「世界の国を知る世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来」
成果	参加型学習を通して、本校にて実践している生徒のソーシャルスキルトレーニングの成果を生かすことができた。興味関心だけではなく、多様な視点から今日の問題を自分事として考察する思考力を持たせることができた。		
課題	ここで生徒が関心をもった事項について自分の教科の授業においてはもちろん、他教科においても応用と活用をできるように教員間で共有をはかっていくことと、JICAの出前講座を意識した時期と内容に改善と発展をしていきたい。		
備考	振り返りシートとは別に、授業内容に関するアンケートを行ったが、大部分において好評であったが、自分の意見を考えるのは難しいと書いた生徒が複数いた。		

地球市民社会で私たちにできること

33

所属	愛知県立三好高等学校	実践者	油科 里佳
対象	高校3年生	時間数	9時間
場所	教室	実践教科	政治・経済
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地球市民社会で暮らす一員の自覚を持たせ、世界で起きている諸問題に関心を持たせる。 ・課題意識を持ち、問題解決のためにできることを考えさせる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	○『わたしたちをとりまく世界』 ①アイスブレーキング「仲間を探そう」 ②アクティビティ「お世話になったものリスト」 ③アクティビティ「コミュニティ分析」 ④まとめ：自分が社会的人間であることを自覚する。	
	2・3	○『日本とエチオピアを比べてみよう』 ①ワークシート「エチオピアってどんな国？」を記入 ②アクティビティ「フォトランゲージ」 ③アクティビティ「日本とエチオピアを比べてみよう」 ④アクティビティ「日本とエチオピアの比較表をつくろう」 ⑤まとめ：「貧困」の存在に気づく。	
	4～6	○『どうして私は貧しいの？』 ①映画「おいしいコーヒーの真実」を鑑賞 ②アクティビティ「貿易ゲーム」 ③ワークシート「南北問題を知る」を記入 ④まとめ：途上国の貧困の影に先進国の存在があることに気づく。	『おいしいコーヒーの真実』（2006） 『新・貿易ゲーム—経済のグローバル化を考える—』（2009）
	7・8	○『経済援助は貧困を削減できるのか？』 ①アクティビティ「コーヒー農園を救済するには？」 ②ワークシート「戦後国際援助の流れ」を記入 ③まとめ：日本をはじめ、先進国の多くが途上国への支援を行っていることを知る。	
	9	○『地球市民社会で日本がなすべきことは何か？』 ①アクティビティ「SDGsカクテルパーティー」 ②アクティビティ「SDGs達成論文を書こう」 ③まとめ：世界で起きていることでは他人事ではないことを自覚する。無関心ではなく、興味を持つことの重要性に気づく。	『持続可能な目標（SDGs）とセーブ・ザ・チルドレン』（2014）
成果	授業者自身が撮影した写真や経験したエピソードを切り口にしたことで、他国で起きていることに関心をもつ生徒が多く見られた。貧困問題の構造を深く理解する生徒も多く、生徒自身の力でバラエティに課題解決の方策を考えることができたことは、非常に大きな実りであったと感じる。		
課題	上手く一つひとつの授業の関連性を結びつけられなかった生徒がいたのは、課題だと感じる。「楽しい」で終わらせないためには、一回ごとの授業の復習が大切であると考えた。		
備考			


職場における外国人との多文化共生を考える。

34

所属	愛知県立半田工業高等学校	実践者	山口 貴士
対象	電気科 課題研究生徒 19名	時間数	6時間
場所	学校	実践教科	電気科 課題研究
ねらい	<p>○技術者として海外で活躍するために工業高校で何を学ぶべきか生徒自身に考えさせる。</p> <p>○工業高校生が就職後に滞りない海外出張、海外転勤、外国人労働者との良好な関係を築くための礎を構築させる。</p> <p>○工業高校卒業生として国際的に活躍し得る人材を育成する。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【教師海外研修報告(フィリピン)】 ・パワーポイントによるプレゼンテーション ・授業実践スケジュールと目的説明	第1～2回 11月17日(木) 12時35分～15時25分 (4～6限目)
	2	【工業高校として技術で支援する方法を考えるきっかけ】 ～貧困をなくすために～ ・路上の子どもたちとの Skype 交流プログラム Talk for 1 Step ・講師:久野美奈子様 (認定 NPO 法人アイキャン)	
	3	【職場で外国人と良好な関係を築くために】 ～多文化理解、グローバルな視点を持つ～ 監修:川島修洋様 (AGC 旭硝子(株)海外勤務経験者) 永島拓也様 (社)ワーキングホリデー協会) 視察:木水蔦代様(JICA 北陸)、倉坪久美様(JICA 中部) 課題:レポート提出	第3回 12月15日(木) 9時10分～12時00分 (1～3限目)
成果	<p>授業実践前は外国人と接することに対して自分と関わりのないことだと、数名の生徒は考えていたようだ。授業内で外国人との関わりを持つ可能性を感じてもらい多文化共生を考えるきっかけとして生徒に何かを感じてもらえたと思う。</p>		
課題	<p>将来、生徒自身が海外、外国人と関わる可能性があるという授業を行う中で感じた生徒も数名いたが、全員に感じてもらうことができなかった。日本は海外との関わり持つことが海外にとっても日本にとっても良い事であると伝えていきたい。</p>		
備考	<p>工業高校生の多くは卒業後に社会人となり製造業などの工場で働く。そのため近い将来、日本において外国人労働者と共に働く可能性がある。また海外勤務、出張なども考えられる。その中で生徒が高校在学中に多文化理解やグローバルな視点を持つことは滞りなく企業で働くために必要なこととなっている。【職場で外国人と良好な関係を築くために】という題材におけるワークショップの構成時に企業の意見も伺ってみたい。</p>		


比べてみよう 日本と世界の国々～違うって素敵だね～

35

所属	愛知県名古屋市立稲西小学校	実践者	木下 優子
対象	特別支援学級 児童(小学校1, 2, 4, 5年)	時間数	2時間
場所	特別支援学級教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本と外国を比較して、衣食住や生活、施設など様々な面で違いがあることを知ることができる。 ・ 世界中の子どもたちの肌、髪、目の色などの違いを見つけ、この世界には様々な人が暮らしていることを知ることができる。 ・ 違いがあることのよさに気づくことができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【日本と外国でどんなところが違うのだろう？】 ① 外国について関心を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国のことがかかれた絵本の読み聞かせを聞く。(「世界とであう えほん」) ・ 児童の知っている国を挙げる。(ポップコーン方式) ② 日本と米国を比べて違いを見つける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 住居、スーパーマーケット、墓地、食べものの日本と米国の写真を見比べる。 ・ 日本か米国、どちらの国の写真か考え、表に写真を貼り付けていく。 ・ 住居、スーパーマーケット、墓地、食べものの各項目について、日本と米国の違いを考える。 ③ 食べものの写真で、日本にも米国にも当てはまらない写真が1枚あり、次時では日本と米国以外の国について学習することを知らせる	 <ul style="list-style-type: none"> ・ 今夏、米国に滞在した児童の写真も使用。 ・ 児童に日本と米国で違うと感じたことを話してもらおう。
2	【世界にはどんな人たちがいるのかな】 ① 世界にはいろいろな肌の色、髪の色、目の色の人たちが暮らしていることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時で学習したことを思い出す。(日本と米国の違い) ・ 「世界とであう えほん」の前時で読んでいないページを読む。 ② 世界で暮らす子どもたちには、どんな違いがあるのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の子どもの顔写真を見比べ、髪や目、肌の色の違いを見つける。 ・ スリランカの学校生活の映像を見て、日本との違いを考える。 ③ 世界には様々な人が暮らしており、違いがたくさんあることのよさに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な国の子どもたちの写真を並べたワークシートを使用。 ・ 教員が撮影したビデオを使用。 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入で使用した絵本が国際理解の入り口としてわかりやすかった。 ・ 1回目の学習では、直前に児童が滞在していた米国を取り上げ、保護者から提供してもらった写真を使用したため、興味を引いた。実際の経験から、友達に米国との違いを話す場面も見られた。 ・ 「違い」を見つける場面で「大きさは？」「数は？」「置いてあるモノは？」など観点を伝えて、行ったことで、違いが見つけやすくなった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 違いを見つけ、世界には様々な人が暮らしていることを知ることができたが、「違い」があることのよさに気づくには、もう少し時間をかけて丁寧に児童へ伝える必要があると感じた。 		
備考	「世界とであう えほん」(パイ インターナショナル出版)		

世界の友だちと ぼくたち・わたしたち

36

所属	愛知県立名古屋特別支援学校	実践者	田原 浩美
対象	小学部6年21名(内重複学級15名)	時間数	39時間
場所	教室、体育館、中部国際空港	実践教科	自立活動、学級活動、外国語 (給食、学習発表会、修学旅行を含む)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・他国の文化に触れて、自分なりの感想をもつことができる。 ・自他の違いを認め合うことができる。 ・多様な文化の中で、心の同一性に気づくことができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1-4	◆パラグアイに友だちをつくろう ・先生がこれから行くパラグアイの友だちに宛てて手紙を書く。 ・パラグアイの友だちからの手紙を受け取る。 ・ビデオレターで交流する。	実際に友だちをつくることで、パラグアイに対して親しみを持ち、より興味をもてるようにした。
	5-9	◆友だちが暮らすパラグアイって どんどころ？ ・民族衣装を着て、どんな場面で着るのかを想像してみる。 ・パラグアイの音楽を聞きながら伝統舞踊を見たり、みんなで踊ったりする。 ・ゲームをしながらパラグアイのさまざまな文化(楽器、伝統舞踊、民芸品、食事、等)について知る。それぞれについての資料は持ち帰って家族にも知ってもらおう。 ・パラグアイ料理を食べる。<給食>	パラグアイ給食  創作劇『世界の果てまでトンデQ!』
	10-31	◆世界の友だちと交流しよう ・パラグアイの友だちと、「みんなの笑顔」というテーマで共同作品を制作する。 ・パラグアイの友だちとダンスで交流する。 ・世界一周旅行の創作劇の練習を通して、世界の文化を知る。 ・たくさんの人に世界の人々と交流する素晴らしさを伝える。<学習発表会> …海外旅行で、言語や文化の違いを感じながらも人々と心を通わせる創作劇。	 JICA 教材『学校に行けない世界の子どもたち』
	32-33	◆理想の世界を描こう ・パラグアイの友だちと自分の「同じこと」と「違うこと」を考える。 ・自分とパラグアイの人々の大切なものの共通点に気づく。 ・大切なものがある世界を絵に描く。 ・理想の世界を阻む問題があることを知る。	 インタビューボード
	34-38	◆日本の当たり前って世界の当たり前？セントレアで調査しよう(通常学級6名対象) ・日本特有のものを考え、それらが本当に日本にしかないのかを考える。 ・外国の人に、「あなたの国に〇〇はありますか」とインタビューする準備をする。 ・セントレアでインタビューを実施し、結果を集計する。<修学旅行> ・もし、自分の当たり前を人に否定されたらどんな気持ちになるのか考えてみる。	 じゃんけんゲームセット
	39	◆世界が平和になるために必要なことを考えよう(通常学級6名対象) ・学校へ行かずに働いている子どもたちについて知る。 ・貿易ゲーム風じゃんけんゲームを通して、どうして戦争が起こるのかを考える。	
成果	文化の学習では、食品の匂いを嗅ごうと自ら顔を近づけたり、舌を出したり、または顔をそむけて嫌がるなど、さまざまな気持ちを表現することができていた。外国の人へのインタビューでは、言葉が通じないことで緊張していたが、親切に応じてもらい親近感と達成感を感じていた。友だちの個性や世界の平和について考える学習を通して、友だちの意見を否定しないルールを守りながら、「自分や他人の考えを尊重することが大事」ということを学ぶことができた。		
課題	児童にとって自分を客観視する学習が難しいこと、また、児童の意見を言語化するのが難しい(教師が児童の意思を引き出して言語化することから、パラグアイの友だちと自分の「同じこと」と「違うこと」の意見が出てきにくかった。そして、理想の世界を描くまでの流れがうまく繋がらなかった。質問の内容をもっと絞って、実態に合ったアプローチ方法を工夫し、児童や教員にねらいを伝わりやすくする必要があった。		
備考	自力歩行している児童や車椅子で姿勢を保っている児童、教科学習をしている児童や言葉での意思表示が難しい児童など、対象児童の実態は幅広い。また、一つ一つの学習に対し、見通しをもって取り組むのに時間がかかりがちである。そのため、文化を体験する学習は五感に働きかけたり、授業時間を多くとったりし、児童の反応をより引き出せるようにした。		

想像を広げよう！世界のこと、日本の今

37

所属	名古屋盲学校	実践者	吉鶴 剛行
対象	高等部普通科・専攻科	時間数	16時間
場所	教室	実践教科	社会
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の現状を理解する。開発途上国の子もたちの様子を知る。 ・日本の歴史(戦中・戦後)を学び、今(日本の豊かさや幸福さ)を考える。 ・世界の文化の多様性を知り、日本と世界のつながりについて考える。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1~2	<p>○ 「Aグループ」(7時間) <読む、聞く、調べる、話し合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の歴史(近現代)を学習している。戦争に関連して、広島原爆被害、学徒疎開、特攻隊、闇市、青空教室などについて調べる。 	<p>☆参考資料</p> <p>「広島平和記念資料館からの資料・原爆詩」</p> <p>「群青！ 知覧特攻基地よりとこしえに」CD</p> <p>「世界の子どもの未来のために」TV録画</p>
	3~4	<ul style="list-style-type: none"> ・ストリートチルドレン、マンホールチルドレン、少年兵の現状を知る。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・バングラデシュで、ゴミの山に通う少女の録画を視聴し、感想を言う。 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ・数字で見る日本と世界(人口・食糧・世界がもし100人の村だったら)について読む。 		
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラム教、アフリカについて知る。(クイズ形式) 	
	1~2	<p>○ 「Bグループ」(5時間) <聞く、味わう、感じる、話し合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の水、教育、食料などの現状について聞き、話し合う。 	<p>「学校に行けない世界の子もたち」「世界の水問題」</p> <p>「世界の食料」</p> <p>「どうなってるの？世界と日本」「国際理解教育実践資料集」JICA資料</p> <p>「トットちゃんトットちゃんたち」黒柳徹子著</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「トットちゃんとトットちゃんたち」の話を聞き、開発途上国の現状を知る。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアトレードについて、チョコレートを食べ、搾取の実際を知る。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・お菓子を分け、貧困や格差について感じてみる。 ・「世界がもし100人の村だったら」を聞く。心に残ったことを発表する。 ・身近な「もったいない」を探す。リサイクル、リユースについて学ぶ。 <p>* ABグループについては、9月中旬に修学旅行に行った。広島では原爆の恐ろしさについて語り部さんの話を聞き、大阪では、万博公園内の国立民族学博物館にて、世界の多様な文化に触れた。</p>	
	1	<p>○ 「Cグループ」(4時間) <見る、書く、考える、話し合う></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球の食卓」の写真を見ながら、世界の五か国について、気づいたことやどこの国かなどを発表し合う。 	<p>「写真で学ぼう！地球の食卓」開発教育協会</p> <p>「世界を動かすことば」(ウルグアイの大統領ホセ・ムヒカのことば)</p> <p>「老いの才覚」「貧困の僻地」曾根綾子著</p>
	2~3	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本は本当に豊かなのか、幸せなのか」を、各データやホセ・ムヒカのことば、曾根綾子「老いの才覚」などの一節から考え、意見交換する。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のこれからの課題について、世界の現状との比較から考える。(付箋に書き発表する) 	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国の現状などを数字やストーリーで伝えることで、今まで知らなかった視点を持つことができた。真剣に話を聞き、自分の意見を率直に述べていた。なごや地球ひろばに行き、自転車を使った浄水器のしくみを体験したり、フェアトレード製品に関心をもつ生徒もいた。 ・「給食を残さない」「物を買わずに済ませない」「物を丁寧に使う」「感謝して食べる」「節水・節電」などの声がかかれた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・知ったことや感じたことを、今後の生活にどう生かしていくのかが大切である。日々の生活の見直しや将来的に「自分に何が出来るのか」を色々な文献に出会いながら考えている。世界の現状をより深く知り、実際に体験することで、これからの行動に結びつけていきたい。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ…高等部3年3名 Bグループ…高等部2.3年4名 Cグループ…高等部専攻科1年5名 ・少人数なので、気づいたことや分かったことを自由に発言し合った。 		


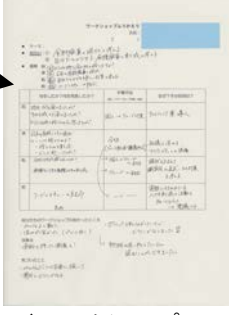
わたし・あなた・みんな～違いを共に生きる～

38

所属	愛知淑徳大学教育学科(多文化共生ゼミ)	実践者	丸中 美来
対象	大学1～4年生	時間数	2回(各90分)
場所	愛知淑徳大学 教室	実践教科	国際理解教育ワークショップ
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人・国と肯定的に出会い、良いところを見つけることができる。 ・自分の当たり前がみんなにとっても当たり前ではないことに気づくことができる。 ・多様な意見を受け入れ、そこから新しい考えを生み出すことができる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【ネパールと肯定的に出会おう】 アイスブレイク(グループ分け):カードで自己紹介 ①ネパールってどんな国? ・数字から見るネパールと日本(統計資料) ・写真から見るネパール人の生活(フォトランゲージ) ②ネパールと日本のとっておきのところと同じところはどこ?(対比表) ・①の活動から、ネパール、日本にしかないものと両国に共通するものを比べる ・他グループのものを回し読みする(共感や発見には☆マーク、疑問に思ったことは?マークを付ける) ③わたしの当たり前はネパールの当たり前? ・ネパールの習慣を知る(資料) ・わたしとあなたとみんなの習慣を知る。 ・すべてを否定されたら(派生図) ④肯定的なつながりのために大切にすること	<準備物> ・お題カード ・統計資料 ・写真(A4 サイズ) 写真解説 ・半模造紙 ペン(人数分)
	2	【多文化共生のチームになろう】 アイスブレイク:仲間探し・仲間こわし(季節・朝ご飯・行きたい国) グループ分け:自己紹介(呼ばれたい名前・最後の晩餐に食べたいもの) ①多文化共生って何?(派生図) ・グループで多文化共生とは何かを考える。 ・他グループのものを回し読み(付け足しや共感したものに☆マークを付ける) ②認めることと認めないことを体感してみよう。(お題カード) ・傾聴な姿勢と無関心な姿勢で話を聞く ③多文化共生を目指して大切にしたいこと。(KJ法 →ピラミッドランキング) ④これからの自分宣言をしよう!	・半模造紙 ペン(人数分) ・お題カード ・半模造紙 付箋 ペン(人数分)
成果	多文化共生に関心のある学生が多かったため、今後の活動に向けての意欲向上につながった。また、アクティビティを通じて、お互いの共通点・相違点や考えを知ることができた。教員志望の学生もたくさんおり、「参考にしたい。」という声を聞くことができた。何よりも全員が楽しんで参加できたことが良かった。		
課題	90分の中でストーリーを組み立て、実行することが難しかった。より深く考えていくためには、多くの時間が必要であると実感した。今後は、回数を増やして行っていきたい。		
備考			

教室の中での体験学習と協調学習

39

所属	愛知淑徳大学交流文化学部	実践者	森下 佳南
対象	大学1年～4年生	時間数	90分×15回(前期・後期)
場所	教室	実践教科	国際理解教育
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の授業の手法を理解し、自ら積極的に話し合いに参加し、行動する力を養う。 ・地球が抱える様々な問題から国内や地域社会の課題まで、知識だけでなく、問題に取り組むための意欲、態度、技能を養う。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	【Step 1】全体像を掴む・国際理解の意義を理解する・参加型授業に慣れる 参加型の授業の体験 <グローバル化について/アイスブレイキング>	<毎回準備するもの> ・紙 ・ペン ・ポストイット 第1回目から最後まで、4人グループに分かれて座る。固定ではない。   ↑ワークショップのふりかえり
	2	国際理解教育について理解しよう <概念理解/ブレンストーミング/派生図>	
	3	持続可能な開発のための教育(ESD)について理解しよう <概念理解/リスト表>	
	4	【Step 2】アクティビティ・プログラムを体験する 人権に関するテーマ: 貧困 - 絶対的貧困と相対的貧困 <KJ法>	
	5	人権に関するテーマ: 偏見と差別 <ロールプレイ>	
	6	生産と消費 <シミュレーション>	
	7	「ワークショップと流れのあるプログラム」・・・伊沢令子氏を講師に招く (Step 3へ繋ぐ)	
	8・9	環境と開発 ①② <作品・映像を使った教材づくり> 多文化共生は可能か?!	
	10	プログラム作り <協働作業>	
	11	【Step 3】自ら流れのあるプログラムを作る・グループで協力をする	
	12	1班から12班まで各班ことなるテーマを選び、プログラムのねらいを定め、「起承転結」になるようにプログラムを構成する。資料準備・ファシリテートを4人のグループで行う。(1班持ち時間25分以内)	
	13	テーマ: 食糧廃棄、難民、フェアトレード、地球温暖化、生物多様性・・・	
	14	【Step 4】ふりかえりと評価	
	15	「ワークショップのふりかえり」 (1) ねらいは何だったか。 (2) ねらいのために何をしたか。(アクティビティは何だったか。) (3) 個人作業・ペア作業・グループ作業・全体作業を行った理由は。 (4) 改善点・誉めたい点 (5) 自分たちのグループへのコメントシートを読む グループ作業→全体への共有 ※「ワークショップ・プログラム作り」評価の観点 ・プログラム(起承転結の流れがスムーズか?)・オリジナリティ・強調性・適切な資料とアクティビティの選択・ファシリテーション技術	
成果	「分かっていたつもりが実はよく理解していなかった。人に話す時に気づいた。」「自分だけでは考えつかなかった意見がグループや全体で意見を共有すると出てきた。」「他者と一つの課題に対して協力して取り組む姿勢をもつことは、世界の共通課題を解決するための一歩である。」「・・・体験が学生の新たな発見をもたらした。		
課題	「誰一人落ちこぼれを作らない」ように教師側が取り組もうとすると、どうしてもだらしのない・態度の悪い学生を擁護しているように他の学生に思われてしまうことがある。授業を真剣に受けている学生に不公平感を与えかねない。思いやりの力加減が難しい。あとは、基本的に時間が足りない。		
備考	その他、授業を通して取り組んでみたい、実践してみたいと思った活動を実際の生活の場で応用したことを報告するジャーナル評価を行った。15週間に合計3回のレポートを提出する。		

あいち国際理解教育勉強会～AIUEO～

40

所属	青年海外協力隊 愛知県 OB 会	実践者	星野 百合子
対象	教職員・JICA ボランティア経験者	時間数	3時間×12回
場所	JICA セミナールーム・生涯学習センター	実践教科	あいち国際理解教育勉強会
ねらい	<p>・途上国の学校の様子や子どもたちの生活を伝え、世界の開発や日本の地域連携について話し合い、平和な暮らしについて考える機会を設ける。</p> <p>・海外旅行や海外生活で得た経験や教材を活用し、幼稚園・小中高校で国際理解教育の授業を実践するための方法を学び合う。</p>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1回	あいち国際理解教育勉強会の目的と実施方法の検討 ・小学3・6年生での授業実践報告～スリランカ K 先生～ ・3年生→「友達の国」というイメージで、外国に親しみを持てるような授業 ・6年生→富の分配や識字率など、世界の現状を知り考える授業	講師:公立小学校教諭
	2回	小学5・6年生の国際理解クラブの授業実践報告～ブラジル S 先生～ ・ブラジルの食文化について調べ学習、ブラジルのお菓子の調理実習、貧困を断ち切る方法を考えるワークショップの実施	講師:公立小学校教諭
	3回	青年海外協力隊愛知県 OB 会の委員会登録に向けての書類の準備 外部講師の依頼について検討	講師:なし
	4回	開発教育協会 DEAR「教材体験フェスタ 2016」の参加報告と教材紹介 ・「世界の食卓」という教材を使い食生活から見た世界の国々の多様性と、地球課題の発見について考える講座	講師:JOCA 職員
	5回	特別企画 ファシリテーター基礎講座～人権教育～	講師:外部講師
	6～8回	「第28回愛知サマーセミナー」市民参加型ワークショップの開催 ・くらべてみよう 日本と世界 ～協力隊が見た学校編～	東海学園大学高等学校にて開催
	9回	特別支援学校における授業実践報告～フィリピン H 先生～	講師:特別支援学校教諭
	10回	「共生社会の実現を考える～聴覚障がいのある子ども達の気持ちになって社会を見てみよう」～タイ K 先生～	講師:特別支援学校教諭
	11回	「地球が1000年つづく、持続可能な暮らしづくりワークショップ」	講師:公立小学校教諭
	12月	世界の調理実習～スリランカ・ブラジル・タイ・インドなどの料理～	東区生涯学習センター
	成果	小中学校・特別支援学校で行った授業実践を紹介し、それを元に授業研究をしたことで児童生徒の様子を思い浮かべながらより具体的な指導の手立てを考えられた。また、授業で使った教材や海外で購入した楽器などを共有し、自分が実際に行ったことがない国であっても取り上げたい地球課題に着目して授業を構成できるような、人と人とのつながりを育む機会になった。	
課題	生活経験のある国の文化を題材とする場合、その国を肯定的に紹介したいという思いから、課題点を具体的に伝えられていないことが明らかになった。自分の視線のみでなく、事実を調べ数値として伝え、判断する力を養うような工夫が必要である。		
備考	本勉強会は、毎月第3日曜の14時～17時に定期的で開催している。		

ちがいはまちがい！？じゃない！！違いを認めてフェアな世界へ

41

所属	こどもNPO ESD プロジェクト	実践者	二宮 由布子
対象	一般	時間数	1時間20分
場所	愛知サマーセミナー2016(原中学校)	実践教科	人権講座「フェアじゃない！」場面を考える
ねらい	多様性を尊重するとは、別の言い方をすれば「お互いのちがいをうけとめあう」こと。一方で、「ちがいは何でもそのまま肯定すればよい、ということではない。差別につながる「ちがいは、積極的に解決していく必要があり、人権を守るための多様性の尊重について整理していく。		
実践内容	回	プログラム	備考
	5分	<挨拶> ・ワークショップのルールの説明	(WS ルール) ◇否定はしない。
	5分	<アイスブレイク・自己紹介> ・「呼ばれたい名前」「〇〇から来ました」「〇〇な私だからインドア or アウトドア」をカクテルパーティー方式で紹介しあう。	◇参加する。(参加したくない時はしない権利がある。)
	10分	<おなじところ探し> ・グループ分けし、4人1組で席に着く。 ・話す中で共通点を見つけB紙中央の円に書いていく。	・模造紙 ・プロッキー
	10分	<違うところ探し> ・お互いの相違点を先ほどのB紙外枠の円に書いていく。	
	30分	<あっていいちがひ、危険なちがひ> ※ワークシート参照 ・グループでワークシートに書いていることを読み、意見交換をする。 ・あっていいちがひ、危険なちがひに対する意見を全体でシェアする。	
	15分	<ちがひを「まちがひ」にしないための5箇条> ・グループでちがひを間違いにしないための5箇条をA4紙に書く。	・A4紙
	5分	<5箇条の発表> ・グループで1人決め、それぞれの5箇条を発表する。	
	10分	<まとめ> ・ワークショップの感想を共有する。	
成果	・異なる学校に通う中高生が集まる機会となった。 ・<あっていいちがひ、危険なちがひ>では、「自分が受けてきた“ちがひ”について疑問に感じたことがなかった」という声があった。中高生の生活に密接した差別・多様性について考えることができた。		
課題	・講座途中で参加する参加者について、過程説明する機会が必要。 ・グループによって解釈等差が生まれた。その際にはもう一度グループ分けをすると良い。		
備考	参考・大阪府 人権学習シリーズ ちがひのとびら 私たちの多様性 (http://www.pref.osaka.lg.jp/jinken/work/kyozai04_05_05.html)		